地域創成農学研究科 博士(前期)課程

		太服 古田	海自 苏博 复儿 送士
		谷坂 隆俊.	濱島 敦博、眞山 滋志、村上 二朗、金沢 功、桧
授業科目名	地域創成農学特論	担当者	相野公孝、氷見英子、
		土井裕司	们到 五字、小光 天 1、
	2017~2018年度 吉備国際大学 大学院 地域創成農研究		
 配当学科・研究科	2017 - 2010年及 日哺国际八子 八子的 地域剧众展训先 科 地域創1年/2018~2022年度 吉備国際大学 大学院	ナンバリング	
10000000000000000000000000000000000000	地域創成農研究科地域博1年		
 必修・選択	必修 単位数 2単位	時間数 30 授	業形態 講義
年次	1年 開講期 2022年度春年		集中講義
十八	2. 飢餓をゼロに/12. つくる責任・つかう責任	, E11 - 312	. 木丁冊我
SDGs関連項目	2 *** 12 25688 15 #00044 15 #0004 15 #00	/ 13. 性の豆がどのものが	
到達目標	本講義は、栽培・育種学、植物保護学、食品機能開題点、さらに地域創成の重要性を認識させつつ、地記教育上の観点から、必要科目として、専任教員全産、食品加工、農業経営全般にわたる専門的知識や会における社会状況、特に農業事情に適格に捉えら	域創成を実現させるための解決策を 員がオムニバス方式で講義を行う。 技術を習得し、第一次産業を主要	を考えさせる内容とする。上本講義を通じて、農業生 産業とする地域社会や国際社
授業概要	高付加価値作物の農産物の生産・育種技術、農産物ターの発展・利用、糖質やタンパク質などの栄養素を越えて輸入される食料・農産物の増加の拮抗力とについて講述する。	及び二次代謝物含有量の栽培条件に	こよる変化、海外からの国境
アクティブラーニン	グの ディスカッション		
内容			
評価方法と割合	学期末に実施する試験で評価する。		
ルーブリック評価	/URL/tiiki.pdf		
課題や試験のフィー	ドーの一個々の学生とのディスカッション		
バック方法			
履修条件・注意事項	特になし		
事前学習・事後学習の時間	とそ 講義で配布する資料を復習し、理解できない点は担	当教員に尋ねること。	
オフィスアワー	週に1回オフィスアワーを設定する。(曜日・時間)	 は研究室のドアに掲示する)	
	授業計画		担当者
第1回 農産物の生産			谷坂
第2回 農産物の生産			谷坂
第3回 育種技術			桧原
第4回 育種技術			桧原
第5回 植物病害防險	<u> </u>		相野
第6回 植物病害防險	7		相野
第7回 植物保護			森野
第8回 植物保護			村上
第9回 植物クリニッ	ウセンター		相野
第10回 成分の変化			土井裕司
第11回 成分の変化			土井裕司
第12回 食品加工			金沢
第13回 農産物の輸	出		濱島
第14回 農産物の輸	出		濱島
第15回 地域創成			濱島
第16回 まとめ・デ	ィスカッション		相野
教科書			
教・書籍名1 特にな	L	教・出版社	名1
教・著者名1		教・ISB	N 1
教・書籍名2		教・出版社	名2
	-		

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	特になし	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	地垣		義				担当	者	谷坂 隆俊	、桧原	建一郎
	201	17~ 2018年度 吉	備国際	大学っ	大学院 地域創成	農研究					
配当学科・研究科	科均	也域創2年/ 2018	3~ 2022	2年度	吉備国際大学っ	大学院	ナンバリ	リング			
	地垣	划息成農研究科 地	域博2年	Ē							
必修・選択	選扔	5	単位	立数	1単位		時間数	15	授	業形態	講義
年次	2年			開]講期 2022年	E度秋学	期		曜日・時間	集 集	中講義
		2. 飢餓をゼロ	に/9.	産業	と技術革新の基	盤をつく	ろう/13	. 気候変	で動に具体的:	な対策	· *
SDGs関連項目		2 filst 9 asserted sate 2003	13 ##x#i	c file							
到達目標		穀物、蔬菜、花の背景となる基準						の農産物	か栽培体系	につい	て学び、修士論文研究
授業概要		地域で起きてい	る問題点めて発表	えと育 長、議	種、栽培的な視 論を行う。また	点からの 、積極的	解決策に対]に新しい育	して学生 種、栽培	E自らが考察 語方法につい	すると ての知	概説する。また、現在 ともに、授業内におい 識を取り入れるため、 。
アクティブラーニン 内容	グの	ディスカッショ	ン/プレ	, ゼン	テーション/そ	の他のア	<i>゚</i> クティブラ	ーニング	で(複合的な	もの等	(1)
評価方法と割合		講義態度、論文	発表の内	容や	質疑応答などか	ら総合的	に評価する	0			
ルーブリック評価											
課題や試験のフィー バック方法	ļ,	各回で発表後に	ディスカ	コッシ	ョンを行う。						
履修条件・注意事項		特になし。									
事前学習・事後学習	とそ	参考資料を第1回	講義で	配布を	と行うので、資料	斗を参考	に予習、復習	習を行う	。最新の育種	〔 、栽均	音に関する研究論文も配
の時間		布するので日本	語に要約	りする。	0						
オフィスアワー		個人研究室にて	、月曜~	~金曜	の間、毎日18時	30分~1	9時30分に乳	実施。			
				授	業計画						担当者
第1回 淡路島の農産	主物と	その栽培特性	講家	轰「AL	.]						
第2回 タマネギの制	战培力	法	講乳	轰「AL	.]						
第3回 レタスの栽培				髮「AL	_						
第4回 修士論文研究											
第5回 日本の品種と				轰「AL							
第6回 世界の品種と	と育種	目標の動向		轰「AL	_					桧原	京健一郎/谷坂隆俊
第7回 地域と作物	1	D.45		퉟「AL ← 「AL	_						
第8回 新しい栽培を	平糸と	前種	講	髮「AL	- J						
教科書									1		
教・書籍名1									教・出版社		
教・著者名1									教・ISB		
教・書籍名2									教・出版社		
教・著者名2									教・ISB	N 2	
参考書									A	<i>5</i> 1	
参・書籍名1									参・出版社		
参・著者名1									参・ISB		
参・書籍名2									参・出版社		
参・著者名2									参・ISB	N 2	

授業科目名	地域創成農学特別講	 義 II			担当者		村上	二朗、相野	公孝
	2017~2018年度吉	備国際大学 大	学院 地	域創成農研究					
配当学科・研究科	科 地域創2年/ 2018	3~ 2022年度 記	ち 備国際	除大学 大学院	ナンバリン	ング			
	地域創成農研究科 地	域博2年							
必修・選択	選択	単位数	1単位		時間数	15		授業形態	講義
年次	2年	開調	講期	2022年度秋学	<u>-</u> :期		曜日・	· 時限 集中	構義
	2. 飢餓をゼロ(に/12.つく	る責任	・つかう責任	/15. 陸の豊	豊かさも	守ろう		
SDGs関連項目	2 mm 12 744 mm 1	<u></u>							
到達目標	て、植物病理の5 生産を確かにする	理解を深めると る植物病害防防	ともに	、生態的な病 発に貢献する	害回避技術開発 ことである。	Ěにつな	がる。	その目標は、	報を得ることによっ 安全で安定した植物
授業概要	見地から、植物のム時代の植物免疫 ※実務経験のある。	と病原体の相互 疫研究として論 る教員による摂	認識応 論じる。 受業科目	答に関わる現	象を紹介し、分	子レベ	いから	見た植物の耐	植物細胞生理学的な病性を、ポストゲノ ・ポストゲノ ・十分な実績を有して
アクティブラーニン 内容	グの ディスカッショ:	ン							
評価方法と割合	レポートにより	評価する。							
ルーブリック評価									
課題や試験のフィー バック方法	ド 授業内でのディス	スカッション							
履修条件・注意事項	植物病理学の知識	識を備えている	らこと。	授業内容の資	料は毎回配布す	トるので	、ファ	イルを用意す	ること。
	とそ参考資料を配布で	するので、第1	. 回目授	業からファイ	ルを準備するこ	こと。ま	た、講	義で用いたス	ライドの配布を希望
の時間	する場合は、US	Bメモリーを用	意する	こと。					
オフィスアワー	各回の授業後に持	担当教員が対応	ぶする。						
		授業	計画						担当者
第1回 植物の生体防	御機構							相野生	公孝
第2回 抵抗性遺伝子	と病原体認識機構							相野生	公孝
第3回 耐病性機構に	こかかわるタンパク質							相野生	公孝
第4回 細胞死現象	(アポトーシス) の役割	割						相野生	公孝
第5回 全身誘導機構	青とそのシグナル伝達							相野生	公孝
第6回 ウイルスの紙	田胞間移動							村上2	二朗
第7回 ウイルスに対	付する宿主抵抗性							村上	二朗
第8回 ジーサイレン	ッシングンの分子機構							村上	二朗
教科書	- Va vvi = 7						+/_		
	資料配布							版社名1	
教・著者名1								SBN1	
教·書籍名2								版社名2	
教・著者名2							教・	SBN2	
参考書							1		
							参・出	版社名1	
参・書籍名1							7.		
参・著者名1								SBN1	
							参・出	SBN1 版社名2 SBN2	

授業科目名	地垣	域創成農学特別講義	·····································				#	当者		金沢	功、	十井	裕司、	林	将也	
		17~ 2018年度 吉伯		学 大学院	完 地址	域創成農研究									., -	
配当学科・研究科	科士	地域創2年/ 2018	~ 2022 ²	年度 吉備	国際	大学 大学院	ナンバリング									
	地垣	越創成農研究科 地	域博2年													
必修・選択	選択	5	単位	数 1 单	単位		時間	数	15		授	業形態	態講	義		
年次	2年			開講期		2022年度秋学	期			曜日	・時間	見 集	中講義			
SDGs関連項目		1. 貧困をなくる み続けられるまた 1 器 2 器 た作 様 ((()		8 mention		に / 3. すべ・ ************************************	ての人に1	建康と	福祉を	2/8.	働き	がいも	経済成	え長も	/11	. 住
到達目標		農作物は、栽培 食有のは、 を有いなな特別を を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 を対していますが、 をがいますが、 をいまが、 をい	養養特にのに、は、のでは、は、のでは、は、のでは、は、のでは、は、のでは、は、のでは、は、のでは、ので	甘味た関生しそ・産謝らいたが、この核物のでは、の核物ででは、のないでは、のないでは、いいないでは、いいないでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、い	味す、次究の生どま富特みるそ代・維物のれに定	を呈し、二次での地域に、一次での地域は、両進いは、両進出はのの進生が機能、あるのでは、産工次では、大産ないのでは、大産ないのでは、大産ないのでは、大産ないのでは、大きないのでは、は、はいのでは、は、はいのでは、は、はいのでは、は、はいのでは、はいいのでは、はいいのでは、はいのでは、はいのでは、はいのでは、はいのでは、はいのでは、はいのでは、はいいのでは、はいのでは、はいのでは、はいのでは、はいのではいいでは、はいのでは、はいいでは、はいのでは、はいのでは、はいのでは、はいいのでは、はいのでは、はいのでは、はいいのでは、はいのでは、はいいのでは、はいいのでは、はいのでは、はいいでは、はい	代謝物はは、おおから、おおから、おおから、おいのでは、おいのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	苦 謝わであ医溦に味注 物れある薬生つな目 にてる酵品物い	どさとい。素へがている。近産院産	独特い らこな業用なる なの例 根 いよて 乗りまする	を能、うは、が能こ呈性、微な、微あ性れ	す成 生二微生る二らの代物に 外部	こる 発謝を引きる 対象の おりまれ もい は 用産 のら	らの 醸、し生 ヒ、のが 造ヒたさ ト地	混多 能ト発れ 健域合い をの酵た 康特比。 利生・抗 維産	率こ 用活醸生 持農にの しを造物 機産
授業概要		1. 南あわじ特産タマネギに含まれるケルセチンを摂取した場合のヒト体タンパク質機能調節作用に基づくその機能性の解説と、ケルセチンを豊富に含むタマネギ外皮を利用した加工食品、化粧品、医薬品の開発実例の紹介。鳴門わかめや昆布などの褐藻の食物繊維であるフコイダンの、エイコサノイド分泌調節作用、明石海苔の品質向上研究の紹介と、色落ち海苔を機能性食素材として開発する研究の紹介。 2. 地域特産シイタケに含まれる β -1,3;1,6-グルカンのレンチナンの、腸上皮細胞サイトカイン受容体発現調節を介した腸炎予防作用の説明。 3. 鳴門わかめに含まれるフコキサンチンのPPARsを介した脂質代謝系調節機能の解説とその応用例の紹介。ナルトオレンジに含まれる β -クリプトキサンチンの機能性解説とそれを利用した香味加工食品開発の講述。淡路特産キンセンカに含まれるフラボルテインの機能性開発研究と、キンセンカの特異な色を応用した加工食品開発の実例の紹介。 4. 放線菌・コリネ菌、乳酸菌・酵母などの有用微生物を用いた二次代謝物を含む発酵・醸造食品、ならびに、二次								鳴研の節ナキン						
アクティブラーニン:	ガの	代謝物を添加した	こ及四・1	本栄叩り:	垒 恢	・心用切先と	主未刊用	ノノボロント	0							
アクティフラーニン: 内容) (J)	ディスカッション	/													
評価方法と割合		毎回の授業終了前 で小論文として作 の要約能力(30		, その内	容か	ら、講義内容の	の理解度									
ルーブリック評価				_												
課題や試験のフィー	ド	評価を討議する。														
バック方法																
履修条件・注意事項		栄養化学、食品化														
事前学習・事後学習	とそ												ドに関す	る科	学情報	を集
の時間		めて復習する。そ			あれ	ば、次回の講	養あるい!	はオフ	ィスア	フーに	質問	する。				
オフィスアワー		それぞれの授業約	冬了後の[-				
				授業計画	画									担当		
	タマス	講義を展開する。 ネギに含まれるケル 引用した加工食品や						講述	(土井)			生 将	井裕司、 也	、金洲	マ 功、	林
第3回 海苔の色素な	ょどカ	コロテノイド類の機	幾能性の	講述(土	#)											
第4回 色落ち海苔を	シスナ	ーック菓子に加工す	する開発	研究の紹	介(:	金沢)										
	-				``	•						ı				

第5回 シイタケ食物繊維のレンチナンの抗炎症機能の講述(土井)

第6回 食品・医薬品に用いる色素・機能性二次代謝物の微生物生産の講述(林)

第7回 鳴門わかめのフコキサンチンの機能性の講述 or ナルトオレンジに含まれる β - クリプトキサンチンの機能性の講述 or 淡路特産キンセンカの機能性を利用した食品開発実例の紹介(金沢)

第8回 放線菌・コリネ菌、乳酸菌・酵母などの微生物が産生する二次代謝物の基礎・応用研究と産業利用の講述 (林)

教科書										
教・書籍名1	三訂 食品機能学	教・出版社名1	光生館							
教・著者名1	寺尾純二・山西倫太郎・高村仁知	教・ISBN1	978-4-332-04059-0							
教・書籍名2		教・出版社名2								
教・著者名2		教・ISBN2								
参考書										
参・書籍名1	栄養機能化学 第3版	参・出版社名1	朝倉書店							
参・著者名1	栄養機能化学研究会編集	参・ISBN1	9784254431179							
参・書籍名2		参・出版社名2								
参・著者名2		参・ISBN2								

		÷ n /	10 V/ +/	'	∸	
授業科目名	地域創成農学特別講		担当者		島敦博	
		備国際大学 大学院 地域創成農研究				
配当学科・研究科		3~ 2022年度 吉備国際大学 大学院	ナンバリン	<i>'</i> Ø		
	地域創成農研究科 地					
必修・選択	選択	単位数 1単位	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	15		
年次	2年	開講期 2022年度秋学			置日・時限	集中講義
SDGs関連項目	2. 飢餓をゼロ 2 職職 8 職業 4	に/8.働きがいも経済成長も/9.	産業と技術革	新の基盤	をつくろう	
到達目標	論を習得した上標とする。また.	農産物貿易と日本農業」をテーマとしで、近年のTTP問題に代表される。 、併せて、近年社会的関心を集めてし	くさい おうな自由化が いる、日本の農	日本農業 産物の海	に与える影 外市場への	響を理解することを到達目 進出状況も j 教授する。
授業概要	論の概要を説明 的に把握し、近	構成となっている。まず、前半では、 し、自由貿易と保護貿易を巡る議論の 年の「TTP問題」などグローバルイ というキーワードに代表されるように	D構造やガット 比の進展が日本	・ラウン農業に与	ドやWTOえる影響を	の設立の意義などを経済学 教授する。後半部分では、
アクティブラーニン 内容	グの ディスカッショ	ン/ディベート/プレゼンテーション	/			
評価方法と割合	試験(100%)に	よって判断する。				
ルーブリック評価						
課題や試験のフィー	ド 試験後に振り返	りを行う				
バック方法	DUNK IX VE JIX V X	7 5 11 7 0				
履修条件・注意事項						
事前学習・事後学習 の時間	とそう復習として、	講義が始まる前に前回のレジュメ資料	斗に目を通して	おくこと。	•	
オフィスアワー	水曜日3限					
		授業計画				担当者
						濱島
教科書						
教・書籍名1				教	・出版社名	1
教・著者名1					·ISBN	
教・書籍名2					・出版社名	
教・著者名2				教	·ISBN	2
参考書						
参・書籍名1 本間 3	E義『農業問題: TPP	後、農政はこう変わる』		参	・出版社名	1 ちくま新書、2014年。
参・著者名1 テム』	番編著『農畜産物輸出 1	拡大の可能性を探る 戦略的マーケラ	「ィングと物流」	シス参	·ISBN	1 農林統計協会,2016年
参·書籍名2 服部信	司『TPP問題と日本』	農業』		参	・出版社名	2 農林統計協会、2011年
参・著者名2				参	·ISBN	2

授業科目名	地域環境学特論				担当者	<u>.</u>	森野	真理		
	2017~2018年度吉	備国際大学 大	学院 坿	也域創成農研究						
配当学科・研究科	科 地域創1年/ 2018	~ 2022年度 記	古備国際	際大学 大学院	ナンバリング					
	地域創成農研究科 地	域博1年								
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業	形態	講義
年次	1年	開調	講期	2022年度秋学	期	•	曜日	・時限	集中詞	構義
SDGs関連項目	15. 陸の豊かる	さも守ろう								
到達目標	態系の共通点と村 サービス観点から	目違点を理解し う考察する能力	、農業	美生産活動と環 こつけることを、	竟との相互作用 到着目標とす	月がもた ける。そ	:らす問 ·のため	題につい に生態 ^は	いて、 学の基	然生態系と農耕地生 生態系機能・生態系 礎を理解したうえ とを課題とする。
授業概要	様性との関係、生	農業生産活動と環境との相互作用がもたらす問題について考察するためには、まず、生態系、生態系機能と生物多様性との関係、生態系サービスの概念について学習し、自然生態系を農地生態系の共通点と相違点について理解する。つぎに、地域の農業生産活動に関する具体的な課題をとりあげ、生態系機能・生態系サービスの観点から問題を解説する。各課題については、演習を通じて自ら調べ、解決策について考察をまとめて発表・議論する。								
アクティブラーニン: 内容	グの ディスカッション	ディスカッション								
評価方法と割合	知識の習得程度での課題発表・レス						な 解決	策を提	示する	能力を確認するため
ルーブリック評価										
課題や試験のフィー バック方法	ド 発表課題に対し、	ディスカッシ	ノョンを	を行う。						
履修条件・注意事項	生物学を復習して	ておくこと。								
事前学習・事後学習 の時間	とそ講義資料を使用し	J、予習・復習	習をする	る。各1時間を目	安とする。					
オフィスアワー	(火) 12:30~3	13:30								
		授業	計画							担当者
2. 自然生態系と農 3. 生態系機能・生態	機能と生物多様性との 地生態系の共通点と相 態系サービスの観点か 探索を行い、解決策に	違点 らみた地域の	農業生	産活動に関する	具体的な課題	の解説。	·		森野	
教科書										
教・書籍名1 特にな	し(必要に応じて、通	適宜資料を配布	する)				教・出	版社名	1	
教・著者名1							教・Ⅰ	SBN	1	
教・書籍名2 特にな	: L						教・出	版社名:	2	
教・著者名2							教・Ⅰ	SBN	2	
参考書										
参・書籍名1 「森林	生態学」 日本生態学	学会編					参・出	版社名	1 共	立出版
参・著者名1							参・I	SBN	1	
参・書籍名2 生物多	・様性と生態学						参・出	版社名:	2 朝:	倉書店
参・著者名2							参・	SBN	2	

松地域の漢字系列 松地域の漢字系列 老地域の正常 2018 ~ 2012 4 度 古便正院大学 大学校 サンバリング 地域 2018 ~ 2018 ~ 2018 ~ 2018 ~ 2018 ~ 2018 ~ 2018 ~ 2018 2018	授業科目名	国際農業学特論	担当者原	産 隆俊、村₋健一郎、福田	動博、眞山 滋志、上 二朗、金沢 功、桧田 惠温、相野 公孝、‡ 裕司、林 将也
地域和風度研究料 地域部に 本語	配当学科・研究科	2017~ 2018年度 吉備国際大学 大学院 地域創成農研究 科 地域創1年 / 2018~ 2022年度 吉備国際大学 大学院			
本の	311 311				
本次 1年 野護期 2022年度秋学詞 曜日・荷瀬 集中清教 本中清教 1年 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月			時間数 30	授業形	能講義
2. 制銀をゼロにノ3. すべての人に健康と福祉を/1.2. つくる責任・つかう責任/1.5. 陸の豊かさも守ろう (1.5. 本事大会に、本事大学件教員が始かで行った環査研究、及び父財刑室に基づいて獲得、整理した知見を基に、世界を国における農業生産、農業技術、食品加工技術、農業経営、農産物・加工食品、経済について、各国の現状、優れた品、および問題もについて経験しつつ、受証が可期時代が治療することの意義、および表の所に留まするというな。世界名間における農業生産、農業技術、食品加工技術、農業経営、農産物・加工食品、経済を砂塊に捉え、各地域における開始の期別とこと解決策する部分を有し、それら地域(国)の発展に寄与できる可隔的社会人を表成することを目標とする。 「本外、特にアジア語区、米国における農業生産、食品加工、活造販売りついて、みた一へ大力支力で表した。 およりも数や・育性の現状と今後の展院、海外における総合的などの日本のが推放する。海外、たいわる数や・育性の現状と今後の展院、海外における社会の日本のが住職者が、カリフォルニアがとか中の未発が着における総合の発展連続、中国政策・長村の他態変化なび増進金数、生産系サービスと農業、等について透通する。 「アクティブラーニングの機能を化び機能変動、生産系サービスと農業、等について通過する。 「アクティブラーニングの機能を化び機能変動、生産系サービスと農業、等について通過する。 「アクティブラーニングの機能を必要した。」 「非確ないまなした。」 「非確ないまなした。」 「非確ないまなした。」 「非確ないまなした。」 「非確ないまなした。」 「非確ないまなした。」 「特別の現状とは知知ないまなした。」 「およりの現代といるの、世界公室、知ら自体物情を入れてラインローの現状とは知知ないまなした。」 「おりる地域の大きなの、対した。」 「おりる地域の現状とは知知ないまなした。」 「およりの理解を対した。」 「おりの理解を経過の現状とは知知ないまなした。」 「おりの理解を経過の現状とは知知ないまなした。」 「およりの理解を経過の現状とは知知ないまなした。」 「おりの目の表情を表現しまれていまなした。」 「およりの理解を対した。」 「およりの理解を対した。」 「およりの理解を対した。」 「おまりの理解を対した。」 「およりの理解を対した。」 「およりの理解を対しため、対した。」 「およりの理解を対した。」 「おまりの理解を対した。」 「およりの理解を対した。」 「おまりの理解を対した。」 「およりの理解を対した。」 「およりの理解を対したる、「およりの理解を対した。」 「およりの理解を対した。」 「およりの理解を対したる。」 「およりの理解を対した。」 「およりの理解を対した。」 「およりの理解を対したる。」 「およりの理解を対したる。」 「およりの理解を対したる。」 「およりの理解を対したる。」 「およりの理解を対したる。」 「およりの理解を対したる。」 「およりの理解を対したる。」 「おまりの理解を対したる。」 「およりの理解を対したる。」 「およりの理解を表したる。」 「およりの理解を表したる。」 「およりの理解を表したる。」 「およりの理解を表したる。」 「おまりの理解を表したる。」 「おまりの理解を表したる。」 「おまりの理解を表しないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまな					
大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大	170			う責任/15	らい 陸の豊かさも守ろう しょう
国における農業生産、農業技術、食品加工技術、農業経営、農産物・加工食品、経済について、各田の現状、優れた点、および問題点について解説しつつ、受講生が国際社会で活躍することの意義、およびその際に設定すべき点、について教授する。専任教員全員が、それぞれの専門分野について、オムニバス方式で消費を行う。世界各国における農業年産、農業技術、食品加工技術、農業経営、農産物・加工食品、経済を的時に収え、各地域における問題の振り起こしと解決策する能力を有し、それる地域(国)の発展に寄与できる国際的社会人を養成することを目標とする。 海外、特にアジア諸国、米国における農業生産、食品加工、流速販売について各分野の専件教員が解述する。海外における栽培・育種の現状と今後の展開、海外における総合的演書典管理の取組み事例の有効性や今後の展開、黒大豆や原布などの日本の広熱食材、カリフォルニア州と中日・果能江省における福作の外屋過程、中田農業・農村の核態を化なが構造意数、生態系サービスと農業、等について議立する。 アクティブラーニングの内容 第24 スカッション デロープリック評価 第24 大力・スカッションを行う。 特になし、 事前学習・事後学習とその時間・事務を使置し、理解できない点は担当教員に尋ねること。 の時間・本方・音響を配価する。 ※型目 表情の表状と課題 第1日 表情の表状と課題 第1日 表情の表状と課題 第4日 超物バイナテクノロジーの現状と課題 第4日 超物バイナテクノロジーの現状と課題 第4日 超物バイナラクロジーの現状と課題 第5日 超物所音をの現状 第4日 超物所での大流行の今音 第6日 国際農業保険の取り組み 第7日 海外育種の現状 第5日 国際農業保験の取り組み 第7日 国外育種の現状 第5日 国際農業保験の取り組み 第7日 国外育種の現状 第5日 国際農業保験の取り組み 第7日 国外育種の現状 第5日 国際農業保験の取り組み 第7日 国外育種の現状 第7日 国外育権の現状 第7日 国内の経緯加工産業・1 福田市産 第7日 日本の発酵別 第7日 国内の発酵別 第7日 国内の発酵別 第7日 国内の発酵別 第7日 国内の経緯加工産業・2 福田市産・2 第7日 日本の発酵別 第7日 国内の経緯加工産業・2 福田市産・2 第7日 日本の発酵別 第7日 日本の発酵別 第7日 国内の発酵別 第7日 日本の発酵別 第7日 国内の経緯加工産業・2 第7日 日本の発酵別 第7日 日本の用が、生産の関生の関生の関生の関生の関生の関生の関生の関生の関生の関生の関生の関生の関生の	SDGs関連項目	2 mms 3 machine 12 2008 15 magains 15 magains			
投業機要	到達目標	国における農業生産、農業技術、食品加工技術、農た点、および問題点について解説しつつ、受講生がについて教授する。専任教員全員が、それぞれの専ける農業生産、農表技術、食品加工技術、農業経営の掘り起こしと解決策する能力を有し、それら地域	業経営、農産物・加工食品 国際社会で活躍することの 門分野について、オムニハ 、農産物・加工食品、経済	、経済につい 意義、および ぶス方式で講義 を的確に捉え	いて、各国の現状、優れ ドその際に留意すべき点 を行う。世界各国にお 上、各地域における問題
アイスカッション ディスカッション ディスカッション ディスカッション ディスカッション ディスカッションを行う。 ディスカッションを行う。 ディスカッションを行う。 ディスカッションを行う。 ディスカッションを行う。 ディスアワー 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	授業概要	における栽培・育種の現状と今後の展開、海外にお 大豆や昆布などの日本の伝統食材、カリフォルニア	ける総合的病害虫管理の取 州と中国・黒龍江省におけ	双組み事例の有	i効性や今後の展開、黒
ループリック評価 講義後にディスカッションを行う。 パック方法		^{グの} ディスカッション			
課題や試験のフィード バック方法 履修条件・注意事項 特になし。 事前学習・事後学習とそ の時間 オフィスアワー 各回の講義後に対応する。 授業計画 担当者 第1回 栽培の現状と課題 谷坂隆俊 第2回 輸入・輸出関連法と植物防疫 相野公孝 第3回 海外における生物的防除の現状 相野公孝 第4回 植物バイナテクノロジーの現状と課題 会原健一郎第5回 植物病害の大流行の今昔 良山滋志 第6回 国際農業機関の取り組み 村上二明第7回 海外育種の現状 水見英子第8個 機能性食品の科学的根拠 森野真理 第9回 海外の機能性食品事情 土井裕司第11回 世界の糖質加工産業-1 福田惠温 第13回 世界の糖質加工産業-1 福田惠温 第13回 世界の糖質加工産業-2 福田惠温 第13回 世界の糖質加工産業-2 福田惠温 第15回 試験 or まとめ 教・書籍名1 特になし。 教・出版社名1	評価方法と割合	学期末に実施する試験で評価する。			
「バック方法	ルーブリック評価				
腰修条件・注意事項 特になし。 事前学習・事後学習とそ		講義後にディスカッションを行う。			
### おから		特になし。			
かけれるアワー 各回の講義後に対応する。 第1回 栽培の現状と課題 台坂隆俊 第2回 輸入・輸出関連法と植物防疫 相野公孝 第3回 海外における生物的防除の現状 相野公孝 第5回 植物病害の大流行の今昔 点山滋志 第6回 国際農業機関の取り組み 村上二朗 第7回 海外育種の現状 水見英子 第8回 機能性食品の科学的根拠 森野真理 第9回 海外の機能性食品事情 土井裕司 第10回 世界が求める日本の農産物 金沢功 第11回 世界の糖質加工産業-1 福田恵温 第12回 世界の糖質加工産業-2 福田恵温 第13回 世界の発酵乳 林将也 第14回 中国の農業 演島敦博 第15回 試験 or まとめ 教・書籍名1 特になし。 教・出版社名1		レテ			
### 授業計画 担当者 第1回 栽培の現状と課題 第1回 栽培の現状と課題 第2回 輸入・輸出関連法と植物防疫 相野公孝 第3回 海外における生物的防除の現状 相野公孝 第4回 植物バイオテクノロジーの現状と課題 接原健一郎 第5回 植物病害の大流行の今昔 集機関の取り組み 第7回 海外育種の現状 第8回 機能性食品の科学的根拠 第9回 海外の機能性食品事情 第10回 世界が求める日本の農産物 第11回 世界が求める日本の農産物 第11回 世界が求める日本の農産物 第11回 世界の糖質加工産業-1 福田恵温 第12回 世界の糖質加工産業-2 福田恵温 第13回 世界の糖質加工産業-2 福田恵温 第15回 世界の発酵乳 第15回 試験 のすまとめ 教科書 教・書籍名1 特になし。 教・出版社名1	の時間	講義で配布する資料を復習し、理解できない点は担	当教員に尋ねること。		
第1回 栽培の現状と課題 第2回 輸入・輸出関連法と植物防疫 相野公孝 第3回 海外における生物的防除の現状 第4回 植物バイオテクノロジーの現状と課題 第5回 植物病害の大流行の今昔 第6回 国際農業機関の取り組み 第7回 海外育種の現状 第8回 機能性食品の科学的根拠 第7回 海外の機能性食品事情 第10回 世界が求める日本の農産物 第11回 世界が求める日本の農産物 第11回 世界の糖質加工産業-1 第12回 世界の糖質加工産業-2 第13回 世界の離質加工産業-2 第13回 世界の発酵乳 第15回 試験 or まとめ 教科書 教・書籍名1 特になし。 教・出版社名1	オフィスアワー	各回の講義後に対応する。			
第2回 輸入・輸出関連法と植物防疫 相野公孝		授業計画			担当者
#3回 海外における生物的防除の現状 相野公孝 #4回 植物バイオテクノロジーの現状と課題 #5回 植物病害の大流行の今昔 #6回 国際農業機関の取り組み #7回 海外育種の現状 #8回 機能性食品の科学的根拠 #9回 海外の機能性食品事情 #10回 世界が求める日本の農産物 #11回 世界の糖質加工産業-1 #12回 世界の糖質加工産業-2 #13回 世界の発酵乳 #13回 世界の発酵乳 #14回 中国の農業 #15回 試験 or まとめ #15回 試験 or まとめ #15回 試験 or まとめ #15回 世界の発酵乳 #15回 試験 or まとめ #15回 は or まとり #15回 は or	第1回 栽培の現状と詞	果題		谷	 坂隆俊
第4回 植物バイオテクノロジーの現状と課題	第2回 輸入・輸出関連	直法と植物防疫		相	野公孝
第5回 植物病害の大流行の今昔	第3回 海外における生	上物的防除の現状		相	野公孝
第6回 国際農業機関の取り組み 村上二朗 第7回 海外育種の現状	第4回 植物バイオテク	フノロジーの現状と課題		桧	原健一郎
第7回 海外育種の現状	第5回 植物病害の大流	流行の今昔		眞	山滋志
第8回 機能性食品の科学的根拠 第9回 海外の機能性食品事情	第6回 国際農業機関の	D取り組み		村	上二朗
第9回 海外の機能性食品事情	第7回 海外育種の現場	犬		氷	見英子
第10回 世界が求める日本の農産物 第11回 世界の糖質加工産業- 1 第12回 世界の糖質加工産業- 2 第13回 世界の発酵乳 第14回 中国の農業 第15回 試験 or まとめ 教科書 教・書籍名 1 特になし。 を決功 福田恵温 福田恵温 精田恵温 大将也 濱島敦博 今坂隆俊	第8回 機能性食品の種	斗学的根拠		森	野真理
第11回世界の糖質加工産業-1 福田惠温 第12回世界の糖質加工産業-2 福田惠温 第13回世界の発酵乳 林将也 第14回中国の農業 濱島敦博 第15回試験 or まとめ 谷坂隆俊	第9回 海外の機能性負	3品事情		土	井裕司
第12回 世界の糖質加工産業-2 福田惠温 第13回 世界の発酵乳 林将也 第14回 中国の農業 第15回 試験 or まとめ 谷坂隆俊 教科書	第10回 世界が求める	日本の農産物		金	沢功
第13回 世界の発酵乳	第11回 世界の糖質加	工産業-1		福	田惠温
第14回中国の農業 第15回試験 or まとめ	第12回 世界の糖質加	工産業-2		福	田惠温
第15回 試験 or まとめ 谷坂隆俊 教科書 教・書籍名1 特になし。 教・出版社名1	第13回 世界の発酵乳			林	将也
教科書 教・書籍名1 特になし。 教・出版社名1	第14回 中国の農業			濱	島敦博
教・書籍名1 特になし。 教・出版社名1	第15回 試験 or まと	め		谷	坂隆俊
	教科書				
	教・書籍名1 特にな	Lo		出版社名1	
	教・著者名1		教·	ISBN1	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	特になし。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	農業経営学特論				担当者		高田	理		
	2017~ 2018年度 吉	備国際大学 大	学院 地域創	成農研究						
配当学科・研究科	科 地域創1年/ 2018				ナンバリン	グ				
	地域創成農研究科 地	域博1年								
 必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	1	授業形	態講義	
年次	1年			2年度秋学	******		曜日	・時限 集		
	 1. 貧困をなく ²					福祉を				に/7 エ
	ネルギーをみんだ		,	•						, ,
	1. 住み続けられ									
SDGs関連項目	の豊かさも守ろ					./ 10		. <u>X</u> 30 (C X)	F-H J-G // J // C /	/ 10. FE
3003因建模日										•
	1 RRE 2 RRE (((3 がての人に 4 頭の みん	411 344	8 marke	9 産業と技術高級の 11 性み続けられ まわづくりを			気候変動に 具体的な対策を 15 帰の		
	/II¥###II ·····	<i>-</i> ₩•		111						
	## \V \\ \tau \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	≫ □ + 11 - 1		. VV 244 + 1	□ U ₩ / Ⅲ 连本	· // + T	7to 1 — 1m	10 I TER I	*** // /= * ^ .	
	農業経営を維持									
지수 다 뉴	形態をとっている									•
到達目標	それらを解決、道									
	討することによっ ができるようにな				吐舌 画胆を制定	(C & &	∕山祇⊂	1メルリ (月ビノ	」)で白行、	回めること
					ŀ∕ET\ Lι\ +	→ > >1	2 2 2 1	# / / 1	/ / / / / / / DF)C A # / /2
	農業経営は、常にいた。									
	課題を理解し、			-						
授業概要	様々な経営戦略									•
	態)、さらには								,	
	析)・検討を通し					(E) 9 ©	。 取後	.に、大11㎡	コ木の刀がしい	胜名力
アクティブラーニン:			以告束に ブ	いてちんし	· ' \ o					
内容	ディスカッション	//ディベー	ト/プレゼン	テーショ	ン					
評価方法と割合	授業での発表・元	ディスカッショ	ョン レポー	トを終合	ア評価する					
ルーブリック評価	以来での光衣・人	1 1 / // / / :	ョン、レホ	1. 飞心口						
課題や試験のフィー	K*									
バック方法	授業での発表・	ディスカッショ	ョン、レポー	トなどに	ついて授業中に	評価・	解説し	てフィー	ヾバックする。	0
履修条件・注意事項	ミクロ経済学の基	ま礎知識を持っ	っていること							
	とそ 事前学修:食料*				関心をもち、情	報収集	し、問	題意識をも	って(学び	たいことを
の時間	準備して)授業に							,_,,,,,,		
	事後学修:授業の	の内容を復習し	_、興味をも	ったことに	は、自ら調べ理	解を深	めるこ	٤.		
	事前、事後学修、				- ,	.,,, -,,,		-0		
オフィスアワー	随時、メール等で			0						
			美計画						担当	 者
第1回 農業経営学特								高	田理	
第2回 農業経営の特	 持徴と課題							高	田理	
第3回 農業経営を取	双り巻く環境変化							高	田理	
第4回 農業経営の目	目標と経営管理							高	田理	
第5回 農業経営戦略	各(その1)―競争戦略	各—						高	田理	
第6回 農業経営戦略	各(その2)―規模・	多角化戦略一						高	田理	
第7回 農業経営戦略	各(その3) ーマーケき	ティング戦略-	_					高	田理	
第8回 農業経営規模	莫と集約度							高	田理	
第9回 農業経営の法	法人化と企業形態							高	田理	
第10回 農業組織化と	:組織経営							高	田理	
第11回 農業経営と農	農業政策、農業諸団体	(農業協同組	合)					高	田理	
第12回 地域活性化と	2.地域農業経営							高	田理	
第13回 農業経営分析	斤(その1)―家族経	営分析一						高	田理	
第14回 農業経営分析	斤(その2)―企業経	営分析一						高	田理	
第15回 まとめ―農業	業経営の実践に向けて -	_						高	田理	
教科書										
教・書籍名1							教・出	版社名1		

教・著者名1	<u>教・</u>	ISBN1	
教・書籍名2	教・	出版社名2	
教・著者名2	教・	ISBN2	
参考書			
参・書籍名1 現代	た農業のマネジメント 参・	出版社名1	日本経済評論社
参・著者名1 木木	対伸男 参・	ISBN1	978-4-8188-1988-7
参・書籍名2	参・	出版社名2	
参・著者名2	参•	ISBN2	

授業科目名	アグリビジネス英語	I			担当	者	氷見	英子		
	2017~ 2018年度 吉	備国際大学 大	学院 地	域創成農研究						
配当学科・研究科	科 地域創1年/ 2018	~ 2022年度 吉	占備国際	祭大学 大学院	ナンバリ	ング				
	地域創成農研究科 地	域博1年								
必修・選択	必修	単位数	1単位		時間数	30		授業刑	態 演習	
年次	1年	開調	冓期	2022年度春学	期		曜日	・時限	月曜3限	
	13. 気候変動に	こ具体的な対策	きを							
SDGs関連項目	13 REAL RADICINE									
	日本国内において	て、日本人だけ	が集ま	る学会や日本人	人のみを対象	とする学	神術誌の	言語は日	本語を使用するが、	国際
	的には自然科学の	の研究成果を発	き表する	学術論文、ある	るいは学会で	の共通言	語は英	語である	。翻訳ソフトを活用	月して
到達目標	学術論文が読めて	ても、実際の英	語力が	なくては国際学	学会では発表	はおろか	、聴講	もかなわ	ない。本科目では覚	学術論
		· · · · · ·			される英語表	現を身に	付け、	翻訳ソフ	トがなくても自力で	で論文
	が読めるようにな	なることを目標	長とする	0						
授業概要	7,112				,	わからな	い単語	を調べな	がら読解する。英語	吾で読
	んで内容を理解す	できるように、	教員が	らはサポートを	を行う。					
アクティブラーニン: 内容	がの その他のアクティ	ィブラーニング	で(複合	かなもの等)						
評価方法と割合	毎回の授業での理	里解度と意欲を	総合的]に判断する。						
ルーブリック評価										
課題や試験のフィー	ド 毎回の授業での	ディフカッシュ	いた選	i!' アフィード/	ヾぃゟを行う					
バック方法		・ 1 ヘルツンヨ 	ı / で쁘 		・ソンで1Jフ 	o				
履修条件・注意事項	辞書を持参するこ	と。電子辞書	まりは	紙の辞書、英和	ロよりは英英	辞典の使	用が望	ましい。	英英辞典を購入する	る場合
及沙木口 江志子久	はCollins Cobuil	dを勧める。								
事前学習・事後学習の	とそ 最初は単語を調べ	べるだけで全く	意味が	べつかめなくても	5、徐々に慣	れて論戈	での意味	がつかめ	るようになると面白	
の時間	なってくる。そこ	こなると、自分	かの研究	分野に近い学術	討論文を自分	で選ぶこ	とが出	来るよう	になり、また自力で	で内容
			いにな	:れば教員からの	り指示がなく	ても自発	的に学	術論文を	読むようになり、そ	それが
	自己学修につなれ	- 0								
オフィスアワー	事前にアポイン			0						
			計画						担当者	
	合わせた学術論文を探								L B	
	ベルまで深く理解する		支論文 (に戻り、内容と	央語表現との)突き合	せを行う) こと え	火見	
	する英語表現を理解す	ం								
教科書							+/h- 11			
教·書籍名1							1	l版社名 1		
教·著者名1								SBN1		
教・書籍名2								版社名2		
教・著者名2							叙・	SBN2		
参考書	Cobuild Dictionaries	for Loorner	Calli	no Cobuild Ada	anacd Las	or's				
参・書籍名 1 Diction		or Learners	- COIIII	ns Cobulla Adv	anced Learr	iers	参・出	版社名1		
参・著者名1 Collins	3						参・	SBN1	ISBN-10 : 00084 ISBN-13 : 978- 0008444907	444900
参・書籍名2							参・出	版社名2		
参・著者名2							_	SBN2		

授業科目名	アグリビジネス英語	II		担当者	-	氷見	英子	
	2017~2018年度吉	備国際大学 大学院	地域創成農研究					
配当学科・研究科	科 地域創1年/ 2018	~ 2022年度 吉備国	1際大学 大学院	ナンバリ:	ング			
	地域創成農研究科 地	域博1年						
必修・選択	必修	単位数 1単位	<u>T</u>	時間数	30		授業形	態 演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学	期		曜日	・時限	引曜4限
	13. 気候変動に	こ具体的な対策を						
SDGs関連項目	13 RABBIE							
	日本国内において	て、日本人だけが集	まる学会や日本人	人のみを対象と	∠する学	術誌の	言語は日	本語を使用するが、国際
	的には自然科学の	の研究成果を発表す	る学術論文、ある	るいは学会での	り共通言	語は英	語である	。翻訳ソフトを活用して
到達目標	学術論文が読めて	ても、実際の英語力	がなくては国際的	学会では発表に	はおろか	、聴講	もかなわ	ない。本科目では学術論
	文を教科書代わり	りとして用いること	で、論文に頻用る	される英語表現	見を身に	付け、	翻訳ソフ	トがなくても自力で論文
	が読めるようにな	なることを目標とす	る。					
授業概要	受講生の研究分野	野に合わせた最新の	学術論文を複数と	選び、地道にネ	っからな	い単語	を調べな	がら読解する。英語で読
汉朱恢女	んで内容を理解で	できるように、教員	からはサポートな	を行う。				
アクティブラーニン: 内容	グのその他のアクティ	ィブラーニング(複	(合的なもの等)					
評価方法と割合	毎回の授業での理	里解度と意欲を総合	的に判断する。					
ルーブリック評価								
課題や試験のフィー	ドークロの授業での手	ディスカッションを	通じてつ / 二じ/	ベックを行う				
バック方法	毎回の技業での	アイベカックョンで	通してフィード	177 Œ 11 7 ₀				
履修条件・注意事項	辞書を持参するこ	こと。電子辞書より	は紙の辞書、英種	和よりは英英話	辛典の使	用が望	ましい。	英英辞典を購入する場合
版 多水口	はCollins Cobuil	dを勧める。						
事前学習・事後学習の	とそ 最初は単語を調べ	べるだけで全く意味	がつかめなくて	も、徐々に慣れ	1て論文	の意味	がつかめ	るようになると面白く
の時間	なってくる。そこ	こなると、自分の研	究分野に近い学行	析論文を自分で	で選ぶこ	とが出	来るよう	になり、また自力で内容
	を読めるようにな	なる。そのレベルに	なれば教員からの	の指示がなくて	ても自発	的に学	術論文を	読むようになり、それが
	自己学修につなれ	がる。						
オフィスアワー	事前にアポイン	トを取れば、対応す	る。					
		授業計画						担当者
	合わせた学術論文を探							
	ベルまで深く理解する		文に戻り、内容と	英語表現との	突き合せ	せを行う	うこと え	K見
	する英語表現を理解す	్ పం						
教科書						40 .1.	WELL 6 4	1
教・書籍名1							版社名1	
教・著者名1							SBN1	
教·書籍名2							版社名2	
教・著者名2						教・	SBN2	
参考書	0 1 11 15: 11	· · · · · · ·				I		
参・書籍名 1 Diction	Cobuild Dictionaries nary	s for Learners - Co	llins Cobuild Adv	anced Learne	er's	参・出	版社名1	
参・著者名1 Collins						参・	SBN1	ISBN-10: 0008444900 ISBN-13: 978- 0008444907
参・書籍名2						参・出	版社名2	
参・著者名2							S B N 2	
						'	,_	

授業科目名	アク	ブリビジネス英語	I					担当者	<u> </u>	氷見	英子		
	20	17~ 2018年度 吉伯	莆国際	大学 :	大学院 坿	地域創成農研究							
配当学科・研究科	科	地域創2年/ 2018-	~ 202	2年度	吉備国際	祭大学 大学院	ナ	ンバリ	ング				
	地域	越創成農研究科 地址	或博2年	F									
必修・選択	選抄	5	単作	位数	1単位		時	間数	30		授美	業形態	演習
年次	2年			厚	引講期	2022年度春学	期			曜日	・時限	月日	翟3限
SDGs関連項目		13. 気候変動に13. 編8505年	具体的	的な対	策を								
到達目標		的には自然科学の 学術論文が読めて 文を教科書代わり)研究原 も、写 として	成果を 実際の て用い	発表する 英語力 <i>が</i> ることで	る学術論文、あ がなくては国際 で、論文に頻用	るいは ^会 学会でに されるst	学会では は発表は 英語表現	の共通言 はおろ <i>た</i> 現を身に	語は英 い、聴講 に付け、	語であ もかな 翻訳ソ	る。 :わな 'フト	語を使用するが、国際翻訳ソフトを活用してい。本科目では学術論がなくても自力で論文 英文要旨を書く練習を
授業概要		受講生の研究分野んで内容を理解で							わからな	い単語	を調べ	ぶなが	ら読解する。英語で読
アクティブラーニン 内容	グの	その他のアクティ	_ - ブラ-	_ <u>-</u> -ニン	 ·グ(複名	 合的なもの等)							
評価方法と割合		毎回の授業での理	解度と	と意欲	で総合的	りに判断する。							
ルーブリック評価													
課題や試験のフィー バック方法	- F	毎回の授業でのテ	ディスプ	カッシ	′ョンを追	通じてフィード.	バック?	を行う。)				
履修条件・注意事項	Į	辞書を持参するこ はCollins Cobuild			書よりに	は紙の辞書、英語	和よりに	は英英:	辞典の係	使用が望	ましい	`。英	英辞典を購入する場合
事前学習・事後学習	とそ	最初は単語を調へ	くるだり	ナで全	く意味が	ぶつかめなくて	も、徐ん	々に慣	れて論式	ての意味	がつか	いめる	ようになると面白く
の時間		なってくる。そこ	なると	と、自	分の研算	兄分野に近い学	術論文を	を自分	で選ぶる	ことが出	来るよ	こうに	なり、また自力で内容
		を読めるようにな	こる。そ	そのレ	ベルにな	いれば教員から	の指示が	がなく	ても自タ	能的に学	'術論文	で読	むようになり、それが
		自己学修につなか	べる。										
オフィスアワー		事前にアポイント	を取れ	hば、	対応する	Ď.							
				授	業計画								担当者
受講者の研究分野に													
他人に説明できるレ	ベル	まで深く理解する。	,その	あと	再度論文	に戻り、内容と	英語表	現とσ	突き合	せを行	うこと	氷り	見
で、学術論文に頻出	ける	英語表現を理解す	る。										
教科書													
教・書籍名1											版社名		
教・著者名1											SBN		
教・書籍名2											版社名		
教・著者名2										教・Ⅰ	SBN	12	
参考書													
参・書籍名 1 Collin Diction		build Dictionaries	for Le	earnei	rs - Colli	ns Cobuild Ad	vanced	Learn	er's	参・出	出版社名	፭ 1	Collins Cobuild
参・著者名1 Collin	าร									参・	SBN	N 1	ISBN-10 : 000844490 ISBN-13 : 978- 0008444907
参・書籍名2										参・出	版社名	፭ 2	
参・著者名2										参・	SBN	12	

	アグリビジネス英語	돌IV			担当者	<u> </u>	氷見	英子		
	2017~2018年度 記	吉備国際大学 ス	大学院 地	地域創成農研究						
配当学科・研究科	科 地域創2年/ 201	.8~ 2022年度	吉備国際	祭大学 大学院	ナンバリ	ング				
	地域創成農研究科 均	地域博2年								
必修・選択	選択	単位数	1単位		時間数	30		授第	能形態	演習
年次	2年	開	講期	2022年度秋学	期		曜日	・時限	月曜	4限
	13. 気候変動	に具体的な対	策を							
SDGs関連項目	13 RESELL									
	日本国内におい	て、日本人だ	けが集ま	ミる学会や日本,	人のみを対象。	とする学	術誌の	言語は	日本語	語を使用するが、国際
	的には自然科学	の研究成果を	発表する	る学術論文、あ	るいは学会での	の共通言	語は英	語であ	る。翻	羽訳ソフトを活用して
到達目標	学術論文が読め	ても、実際の	英語力か	がなくては国際	学会では発表に	まおろか	、聴講	もかな	わなし	、本科目では学術論
刘廷口惊	文を教科書代わ	りとして用い	ることて	で、論文に頻用	される英語表現	見を身に	付け、	翻訳ソ	フトカ	「なくても自力で論文
	が読めるように	なることを目	標とする	る。また自分ので	研究内容を英語	語で発表	する練	習とし	て、英	文要旨を書く練習を
	行う。									
授業概要	受講生の研究分	<u>►</u> 野に合わせた	最新の学	学術論文を複数	選び、地道に	わからな	い単語	を調べ	ながら)読解する。英語で読
1.人不例及	んで内容を理解	『できるように	、教員か	nらはサポート:	を行う。					
アクティブラーニン	グの その他のアクテ	<u></u>	 グ (複合	<u></u>						
内容	Collabor		/ (IX L	143.00 0 -> (1)						
評価方法と割合	毎回の授業での	理解度と意欲	を総合的	りに判断する。						
ルーブリック評価										
課題や試験のフィー	ド 毎回の授業での)ディスカッシ	ョンを通	通じてフィード,	バックを行う。					
バック方法										
, , , , , , , , , ,										
履修条件・注意事項			書よりは	は紙の辞書、英語	和よりは英英語	辞典の使	用が望	ましい	。英英	辞典を購入する場合
履修条件・注意事項	はCollins Cobu	ildを勧める。								
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調	ildを勧める。 Iべるだけで全	く意味か	· ・ ・ つかめなくて	も、徐々に慣っ	れて論文	の意味	がつか	めるよ	うになると面白く
履修条件・注意事項	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ	ildを勧める。 べるだけで全 こなると、自	く意味か 分の研究	がつかめなくて: 門分野に近い学	も、徐々に慣れ 術論文を自分 [・]	れて論文	で意味 とが出	がつか 来るよ	めるよ うにな	くうになると面白く より、また自力で内容
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように	ildを勧める。 引べるだけで全 こなると、自 なる。そのレ	く意味か 分の研究	がつかめなくて: 門分野に近い学	も、徐々に慣れ 術論文を自分 [・]	れて論文	で意味 とが出	がつか 来るよ	めるよ うにな	うになると面白く
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習 の時間	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな	ildを勧める。 lべるだけで全 こなると、自 なる。そのレ がる。	く意味か 分の研究 ベルにな	がつかめなくて: 紀分野に近い学行 いれば教員からの	も、徐々に慣れ 術論文を自分 [・]	れて論文	で意味 とが出	がつか 来るよ	めるよ うにな	くうになると面白く より、また自力で内容
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように	ildを勧める。 Iべるだけで全 こなると、自 なる。そのレ がる。 ・トを取れば、	く意味か 分の研究 ベルにな 対応する	がつかめなくて: 紀分野に近い学行 いれば教員からの	も、徐々に慣れ 術論文を自分 [・]	れて論文	で意味 とが出	がつか 来るよ	めるよ うにな	さうになると面白く より、また自力で内容 おようになり、それが
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな 事前にアポイン	ildを勧める。 べるだけで全 - こなると、自 - なる。そのレ - がる。 - /トを取れば、 授	く意味か 分の研究 ベルにな 対応する 業計画	がつかめなくて: 紀分野に近い学行 なれば教員からの	も、徐々に慣 [、] 術論文を自分 [・] の指示がなく [・]	れて論文 で選ぶこ ても自発	の意味とが出	がつか来るよ	めるよ うにな	くうになると面白く より、また自力で内容
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 受講者の研究分野に	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな 事前にアポイン 合わせた学術論文を打	ildを勧める。 「べるだけで全」 こなると、自 なる。そのレ ながる。 ・トを取れば、 授: 深し、丹念に記	く意味か 分の研究 ベルにな 対応する 業計画 売み込む	がつかめなくて: 兄分野に近い学んなれば教員からの 5。 ことで内容を理	も、徐々に慣だ 術論文を自分で の指示がなくで 世解する。一度	れて論文で選ぶこで も自発	この意味 とが出	がつか来るよ	めるよ うにな を読む	さうになると面白く より、また自力で内容 おようになり、それが
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 受講者の研究分野に 他人に説明できるレ	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな 事前にアポイン 合わせた学術論文を ベルまで深く理解する	ildを勧める。 べるだけで全 こなると、自 なる。そのレ がる。	く意味か 分の研究 ベルにな 対応する 業計画 売み込む	がつかめなくて: 兄分野に近い学んなれば教員からの 5。 ことで内容を理	も、徐々に慣だ 術論文を自分で の指示がなくで 世解する。一度	れて論文で選ぶこで も自発	この意味 とが出	がつか来るよ	めるよ うにな	さうになると面白く より、また自力で内容 おようになり、それが
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 受講者の研究分野に 他人に説明できるレ で、学術論文に頻出	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな 事前にアポイン 合わせた学術論文を打	ildを勧める。 べるだけで全 こなると、自 なる。そのレ がる。	く意味か 分の研究 ベルにな 対応する 業計画 売み込む	がつかめなくて: 兄分野に近い学んなれば教員からの 5。 ことで内容を理	も、徐々に慣だ 術論文を自分で の指示がなくで 世解する。一度	れて論文で選ぶこで も自発	この意味 とが出	がつか来るよ	めるよ うにな を読む	さうになると面白く より、また自力で内容 おようになり、それが
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 受講者の研究分野に 他人に説明できるレ で、学術論文に頻出 教科書	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな 事前にアポイン 合わせた学術論文を ベルまで深く理解する	ildを勧める。 べるだけで全 こなると、自 なる。そのレ がる。	く意味か 分の研究 ベルにな 対応する 業計画 売み込む	がつかめなくて: 兄分野に近い学んなれば教員からの 5。 ことで内容を理	も、徐々に慣だ 術論文を自分で の指示がなくで 世解する。一度	れて論文で選ぶこで も自発	の意味とが出	がつか 来るよ 術論文	めるよ うにな を読む 氷見	さうになると面白く より、また自力で内容 おようになり、それが
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 受講者の研究分野に 他人に説明できるレ で、学術論文に頻出 教科書 教・書籍名1	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな 事前にアポイン 合わせた学術論文を ベルまで深く理解する	ildを勧める。 べるだけで全 こなると、自 なる。そのレ がる。	く意味か 分の研究 ベルにな 対応する 業計画 売み込む	がつかめなくて: 兄分野に近い学んなれば教員からの 5。 ことで内容を理	も、徐々に慣だ 術論文を自分で の指示がなくで 世解する。一度	れて論文で選ぶこで も自発	た内容をせを行・数・出	がつか 来るよ 術論文 を次に うこと	めるようになを読む	さうになると面白く より、また自力で内容 おようになり、それが
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 受講者の研究分野に 他人に説明できるレ で、学術論文に頻出 教科書 教・書籍名1 教・著者名1	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな 事前にアポイン 合わせた学術論文を ベルまで深く理解する	ildを勧める。 べるだけで全 こなると、自 なる。そのレ がる。	く意味か 分の研究 ベルにな 対応する 業計画 売み込む	がつかめなくて: 兄分野に近い学んなれば教員からの 5。 ことで内容を理	も、徐々に慣だ 術論文を自分で の指示がなくで 世解する。一度	れて論文で選ぶこで も自発	の意味 とが出 めに学 た内容? せを行・ 教・出	がつか 来るよ 術論文 を次に うこと SBN	めるようになを読む	さうになると面白く より、また自力で内容 おようになり、それが
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 受講者の研究分野に 他人に説明できるレ で、学術論文に頻出 教科書 教・書籍名1 教・書籍名1 教・書籍名2	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな 事前にアポイン 合わせた学術論文を ベルまで深く理解する	ildを勧める。 べるだけで全 こなると、自 なる。そのレ がる。	く意味か 分の研究 ベルにな 対応する 業計画 売み込む	がつかめなくて: 兄分野に近い学んなれば教員からの 5。 ことで内容を理	も、徐々に慣だ 術論文を自分で の指示がなくで 世解する。一度	れて論文で選ぶこで も自発	の意味とがに学た内容を行かれます。数・出数をおいます。	がつか 来るよ を次に うこと B M N A A A A A A A A A A A A A A A A A A	めるよ うにな を読む	さうになると面白く より、また自力で内容 おようになり、それが
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 受講者の研究分野に 他人に説明できるレ で、学術論文に頻出 教科書 教・書籍名1 教・著者名1 教・書籍名2 教・著者名2	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな 事前にアポイン 合わせた学術論文を ベルまで深く理解する	ildを勧める。 べるだけで全 こなると、自 なる。そのレ がる。	く意味か 分の研究 ベルにな 対応する 業計画 売み込む	がつかめなくて: 兄分野に近い学んなれば教員からの 5。 ことで内容を理	も、徐々に慣だ 術論文を自分で の指示がなくで 世解する。一度	れて論文で選ぶこで も自発	の意味とがに学た内容を行かれます。数・出数をおいます。	がつか 来るよ 術論文 を次に うこと SBN	めるよ うにな を読む	さうになると面白く より、また自力で内容 おようになり、それが
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 受講者の研究分野に 他人に説明できるレ で、学術論文に頻出 教科書 教・書籍名1 教・書籍名2 教・著者名2 参考書	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな 事前にアポイン 合わせた学術論文を打 ベルまで深く理解する する英語表現を理解・	ildを勧める。 べるだけで全になる。そのレンがる。 ・	く意味からない 対応する 対応する 悪い 対応する 悪い 大き	がつかめなくて 記分野に近い学行 なれば教員からの る。 ことで内容を理 に戻り、内容と	も、徐々に慣。 術論文を自分での指示がなくで の指示がなくで 理解する。一度 ご英語表現との	れて論文で選ぶこで選ぶこでも自発で理解した。	の意味出学たせを教教・日本のでは、	がつか 来 術 論 文 と う こ と も る と る と る る と る る る る る る る る る る る	めるようにな を読む	さうになると面白く より、また自力で内容 おようになり、それが
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 受講者の研究分野に他人に説明できるレで、学術論文に頻出 教・書籍名1 教・書籍名1 教・書籍名2 教・著名2 参考書 参・書籍名1	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな 事前にアポイン 合わせた学術論文を打 ベルまで深く理解する する英語表現を理解 する英語表現を理解 s Cobuild Dictionarie	ildを勧める。 べるだけで全になる。そのレンがる。 ・	く意味からない 対応する 対応する 悪い 対応する 悪い 大き	がつかめなくて 記分野に近い学行 なれば教員からの る。 ことで内容を理 に戻り、内容と	も、徐々に慣。 術論文を自分での指示がなくで の指示がなくで 理解する。一度 ご英語表現との	れて論文で選ぶこで選ぶこでも自発で理解した。	のかに 内を 教教教 参 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・	がつか 来 術 論 文 と う こ と も る と る と る る と る る る る る る る る る る る	めるようになる を読む 	(うになると面白く (すり、また自力で内容 ()ようになり、それが 担当者
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 受講者の研究分野に他人に説明できるレで、学術論文に頻出 教・書籍名1 教・書籍名2 教・著者名2 参考書 参・書籍名1 Collin Dictio	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな 事前にアポイン 合わせた学術論文を打 ベルまで深く理解する する英語表現を理解 する英語表現を理解 s Cobuild Dictionarie	ildを勧める。 べるだけで全になる。そのレンがる。 ・	く意味からない 対応する 対応する 悪い 対応する 悪い 大き	がつかめなくて 記分野に近い学行 なれば教員からの る。 ことで内容を理 に戻り、内容と	も、徐々に慣。 術論文を自分での指示がなくで の指示がなくで 理解する。一度 ご英語表現との	れて論文で選ぶこで選ぶこでも自発で理解した。	のかに 内を 教教教 参 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・ 出 ・	がっている。	めるようになる を読む 	はうになると面白く はり、また自力で内容 はようになり、それが 担当者 Dollins Cobuild BN-10: 0008444900 BN-13: 978-
履修条件・注意事項 事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 受講者の研究分野に他人に説明できるレで、学術論文に頻出 教・書籍名1 教・書籍名2 教・著者名2 参考書 参・書籍名1 Collin Dictio	はCollins Cobu とそ 最初は単語を調 なってくる。そ を読めるように 自己学修につな 事前にアポイン 合わせた学術論文を打 ベルまで深く理解する する英語表現を理解 する英語表現を理解 s Cobuild Dictionarie	ildを勧める。 べるだけで全になる。そのレンがる。 ・	く意味からない 対応する 対応する 悪い 対応する 悪い 大き	がつかめなくて 記分野に近い学行 なれば教員からの る。 ことで内容を理 に戻り、内容と	も、徐々に慣。 術論文を自分での指示がなくで の指示がなくで 理解する。一度 ご英語表現との	れて論文で選ぶこで選ぶこでも自発で理解した。	のと的 内を 教教教 参 参 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	がっている。	めるようになる。	はうになると面白く はり、また自力で内容 はようになり、それが 担当者 Dollins Cobuild BN-10: 0008444900 BN-13: 978-

授業科目名	栽培	・育種学特論						担当者		谷坂	隆俊、	桧原	健一郎
	201	17~ 2018年度 吉	備国際	大学 オ	学院均	地域創成農研究							
配当学科・研究科	科均	也域創1年/ 2018	~ 202	2年度	吉備国	際大学 大学院		ナンバリン	ング				
	地垣	划息成農研究科 地	域博1年	F									
必修・選択	選扔	5	単1	位数	2単位	Ī		時間数	15回		授第	美形態	集中、対面式
年次	1年			開	講期	2022年度春学	期			曜日	・時限	集中請	義
		2. 飢餓をゼロに	c∕3.	すべ	ての人に	に健康と福祉を	/4.	. 質の高い	`教育を	みんな	:に/6	. 安全	な水とトイレを世界
		中に/9.産業と	と技術	革新の	基盤を	つくろう/13.	. 気	候変動に具	具体的な	:対策を	/14	. 海の:	豊かさを守ろう/1
SDGs関連項目		5. 陸の豊かさる	も守ろっ	う									
O D G O ME XI		2 新編を ゼロに 3 青水ての人に 関連を指摘を	4 質の高い数 みんなに	the 6 Rt	きな水とトイレ g	産業と技術系統の 基盤をつくろう 13 気候変動に	14 mg	15 株の最から	86				
		_W^•		ji T	O		æ X		2.3				
					•				_				
		低投入持続型農業	業(Lov	w Inpu	t Susta	ainable Agricult	ure;	LISA)に資	する最	新の育	種学研	究および	び担当教員が開発した
到達目標		画期的土づくりる	ヒ水質さ	炎善技 征	桁を紹2	介するとともに、	、そ	の内容につ	ついて論	議し、	LISAσ	推進方	法を考察する。
刘是自协													
													さくした「低投入持
					_								ちの2つの側面からの
授業概要		-											および養分吸収に関
													改良剤の開発などが
			下講義 7	では、l	_ISAの	実規に貸するこ	れら	の研究につ	ついて詳	i 述する	らととも	に、そ	の内容について論議
<i>→ 1</i> =	h a	する。											
アクティブラーニング	クの	ディスカッション	//プロ	レゼン・	テーシ	ョン							
内容		悪美山に伝ふる!	± or tho	カャト	7 V ₩D - =	井野の 武徳 ニト	-						
評価方法と割合 ルーブリック評価		講義中に行う論語講義中の論議で記		口もよ	い州木	水肥ツル潤によ) ر	11川りつ					
課題や試験のフィー	Ļ,	冊 我 下 ツ 픎 哉 ぐ 請	гіЩ										
ボック方法	•	受講者に口頭で詞	見明する かんりゅう	る。									
履修条件・注意事項		植物育種学および	び遺伝 🖺	学、分 ⁻	子生物的	学の基礎知識を	有し	ていること	- 0				
事前学習・事後学習の	とそ	配布するTEXTを	何回歩	読み	解らた	 こいところがあれ	にば	担当教員	に質問	する。			
の時間			130	100-7	7,1 2 0			111111111111111111111111111111111111111	,-,,,,	, 00			
オフィスアワー		いつでも可。		占⇒	業計画								担当者
1回目 LISAの実現と	· 1 # }	まに向けた課題の	救 珊	ĬX =	未可四								担当有
2回目 LISAに資する				性/- 悶	する是	新の苔種学研究	(1	à)					
3回目 LISAに資する									オムギ	ダイフ	でた		
ど)	- /r J 🗀		— 1 <u>-</u> -11/0		, 54	I I E J WIZU	. 、一		1 \	, , ,	<u>.</u>		
	高春	養分吸収能遺伝子:	の探索	と同定	と利用	(イネ)							
		&分	3.1.214	_ , ,,	_ 137.13		ナ)						
6回目 地球温暖化対	応品	品種育成のためのi	貴伝子の	- の探索	・同定	と利用(イネ)	Ť						
7回目 地球温暖化対	応品	品種育成のための)	遺伝子の	の探索	・同定	と利用(野菜と	果樹)					
8回目 乾燥およびア	ルカ	リ土壌に対する	耐性遺化	伝子の:	探索・	司定と利用						/\\ I==	z /4÷
9回目 学生によるL	ISA	に関する学術論文	の紹介	と論詩	美							谷坂隆	全 後
10回目 重金属低吸	収遺′	伝子の探索と同定	2										
11回目 バイバイオス	ティ	ミュラント「土場	度微生物	勿叢活忖	生剤」(こよる土づくり	(国)	内での事例	IJ)				
12回目 バイオスティ	ミュ	ラント「土壌微生	上物叢流	舌性剤」	による	る土づくり(熱	帯ア	ジア稲作で	での事例)			
13回目 バイオスティ	ミュ	ラント「土壌微生	上物叢流	舌性剤」	による	る農業用水の水気	質改	善					
14回目 バイオスティ	ミュ	ラント「土壌微質	上物叢流	舌性剤」	による	る水質改善の応り	用(.	エビの放棄	€養殖池	の再生	とエビ		
養殖)													
15回目 LISAの実現と	:推道	進に向けた課題に	ついて	の総括									
教科書													
	は担	当教員の谷坂が本	講義月	月に作用	成する1	EXT (PDF版)	を無	料で配布	する。				
教・書籍名1 市販の	教科	書には、最近2年	の研究	成果が	『記載さ	れておらず、内	容か	ざ古くなっ	てし	教・出	協社名	1	

	まっているため使用しない。		
教・著者名1	LISAに関わる優れた学術論文を補助教材として使用する	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	植物ゲノム解析学特詞		担当者	-	桧原	健一郎	
	2017~2018年度吉	備国際大学 大学院 地域創成農研究					
配当学科・研究科	科 地域創2年/ 2018	~ 2022年度 吉備国際大学 大学院	ナンバリン	ング			
	地域創成農研究科 地	域博2年					
必修・選択	選択	単位数 2単位	時間数	30		授業形態	態講義、実習
年次	2年	開講期 2022年度春学				・時限集	
	1. 貧困をなくる	そう/2.飢餓をゼロに/3.すべ	ての人に健康と	:福祉を/	/9.	産業と技術	『革新の基盤をつくろう
SDGs関連項目	1 mme 2 mme enc	3 すべての人に 9 産業と技術首新の 基準をつくろう					
	/iìxiriir	- ₩•					
	L 1 1 1 24 1 - 4 2 1	714 DAIA >	7 4 2 44 44 1	, +. ++ /±-	アギー	ナ. 471 ナーイン	L // D # + 1 / 20 P 1 - 4
		ヽては、DNAシーケンシング技術の m、微生物に至えばもな生物種も社					
		か、微生物に至る様々な生物種を対 たと同時に活用することが必須に					
到達目標		ことと同時に活用することが必須に 必要なゲノム解析に関する基礎的知					
		Rに関連するゲノム解析についてア					, ,
		と深めることを目的とする。	//1// =	-// (G 657C	大日土冊お	
		-	ム科学は、様々	な生物に	におけ	る研究の登	経展に大きく貢献! 今
		を新によって益々生物学に関する新					
授業概要		デノムに関する基礎的な知識からゲ					
	文研究内容につい	ヽてゲノム科学からアプローチにつ	いても議論しな	ょがら、イ	修士論	文研究内容	Pに沿った植物ゲノム情
	報の利活用方法に	こついて学ぶとともに、PCを用いた	:dry解析やDNA	A抽出なる	どを行	うwet解析	などの実習も行う。
アクティブラーニング	グの ニュュナー・・・	·/プレゼンテーション/実習					
内容	ディスカッショ <i>ン</i>	// ノレセノナーション/ 美音					
評価方法と割合	講義態度、実習内	7容で評価を行う。					
ルーブリック評価							
課題や試験のフィー	ド 特に無し						
バック方法							
	ゲノムやDNAに関	関する修士論文研究を行なっている	学生を対象とる	する。た゛	だし、	研究内容に	- 分子生物学的手注を即
履修条件・注意事項	11 7 10 4 1 . 24 4 4		1 エピバスピ				
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	方履修することができる。) <u></u>				
事前学習・事後学習は	トス						
事前学習・事後学習 の時間	とそ講義で配布する資	ら履修することができる。 資料を復習し、理解できない点は尋					
事前学習・事後学習の	とそ講義で配布する資	っ履修することができる。					担当者
事前学習・事後学習 (の時間	とそ 講義で配布する資 毎週金曜日12:45	5履修することができる。 資料を復習し、理解できない点は尋 ∼13:25をオフィスアワーとする。					
事前学習・事後学習 の の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA	とそ 講義で配布する資 毎週金曜日12:45	5履修することができる。 資料を復習し、理解できない点は尋 ∼13:25をオフィスアワーとする。					
事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに	とそ 講義で配布する 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について	5履修することができる。 資料を復習し、理解できない点は尋 ∼13:25をオフィスアワーとする。					
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに 第3回 ゲノム解析に	とそ 講義で配布する 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について	ら履修することができる。 資料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画					
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに 第3回 ゲノム解析に 第4回 修士論文研究 第5回 修士論文研究	を考 講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ついて 関わる実験手法 2内容の発表【プレゼン 2における遺伝子、ゲン	ら履修することができる。 資料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画 // テーション】 // ム解析方法の検討	ねること。			松	担当者
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに 第3回 ゲノム解析に 第4回 修士論文研究 第5回 修士論文研究 第6-11回 ゲノム解析	を考 講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ついて 関わる実験手法 2内容の発表【プレゼン 2における遺伝子、ゲン	ら履修することができる。 資料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画	ねること。	wet解析	など方	法が異	
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに 第3回 ゲノム解析に 第4回 修士論文研究 第5回 修士論文研究 第6-11回 ゲノム解析 なる)	を考 講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ついて 関わる実験手法 C内容の発表【プレゼン における遺伝子、ゲン 析研究の実施【実習】	ら履修することができる。 資料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画 // テーション】 // ム解析方法の検討	ねること。	wet解析:	など方	法が異	担当者
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに 第3回 ゲノム解析に 第4回 修士論文研究 第5回 修士論文研究 第6-11回 ゲノム解析なる) 第12回 ゲノム解析で	を考講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ついて 関わる実験手法 C内容の発表【プレゼン における遺伝子、ゲン 析研究の実施【実習】	ら履修することができる。 資料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画 ・ケーション】 ・ム解析方法の検討 (解析内容によりPCによるdry解析	ねること。	wet解析:	など方	法が異	担当者
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに 第3回 ゲノム解析に 第4回 修士論文研究 第5回 修士論文研究 第6-11回 ゲノム解析 なる) 第12回 ゲノム解析 第13回 修士論文研究	はる ・ 講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ・ でいて ・ 関わる実験手法 ・ と内容の発表【プレゼン ・ における遺伝子、ゲン が研究の実施【実習】 ・ 研究の結果のまとめ ・ 究課題におけるゲノム	ら履修することができる。 登料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画 / ム解析方法の検討 (解析内容によりPCによるdry解析	ねること。	wet解析:	など方	法が異	担当者
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに 第3回 ゲノム解析に 第4回 修士論文研究 第5回 修士論文研究 第6-11回 ゲノム解析 なる) 第12回 ゲノム解析 第13回 修士論文研究	を考講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ついて 関わる実験手法 C内容の発表【プレゼン における遺伝子、ゲン 析研究の実施【実習】	ら履修することができる。 登料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画 / ム解析方法の検討 (解析内容によりPCによるdry解析	ねること。	wet解析	など方	法が異	担当者
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに 第3回 ゲノム解析に 第4回 修士論文研究 第5回 修士論文研究 第6-11回 ゲノム解析 なる) 第12回 ゲノム解析 第13回 修士論文研究 第14、15回 植物ゲ	はる ・ 講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ・ でいて ・ 関わる実験手法 ・ と内容の発表【プレゼン ・ における遺伝子、ゲン が研究の実施【実習】 ・ 研究の結果のまとめ ・ 究課題におけるゲノム	ら履修することができる。 登料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画 / ム解析方法の検討 (解析内容によりPCによるdry解析	ねること。			法が異	担当者
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに 第3回 ゲノム解析に 第4回 修士論文研究 第5回 修士論文研究 第6-11回 ゲノム解析に なる) 第12回 ゲノム解析に 第13回 修士論文研究 第13回 修士論文研究 第14、15回 植物ゲ 教科書	はる ・ 講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ・ でいて ・ 関わる実験手法 ・ と内容の発表【プレゼン ・ における遺伝子、ゲン が研究の実施【実習】 ・ 研究の結果のまとめ ・ 究課題におけるゲノム	ら履修することができる。 登料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画 / ム解析方法の検討 (解析内容によりPCによるdry解析	ねること。		教・出	版社名1	担当者
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに 第3回 ゲノム解析に 第4回 修士論文研究 第5回 修士論文研究 第6-11回 ゲノム解析 なる) 第12回 ゲノム解析 なる) 第12回 ゲノム解析 なる) 第13回 修士論文研究 第14、15回 植物ゲ 教科書 教・書籍名1	はる ・ 講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ・ でいて ・ 関わる実験手法 ・ と内容の発表【プレゼン ・ における遺伝子、ゲン が研究の実施【実習】 ・ 研究の結果のまとめ ・ 究課題におけるゲノム	ら履修することができる。 登料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画 / ム解析方法の検討 (解析内容によりPCによるdry解析	ねること。		教・出	版社名1 SBN1	担当者
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに第3回 ゲノム解析に第4回 修士論文研究第6-11回 ゲノム解析に第6-11回 ゲノム解析なる) 第12回 ゲノム解析なる) 第12回 ゲノム解析の第13回 修士論文研究第14、15回 植物ゲメム解析の第14、15回 植物ゲ教科書教・書籍名1	はる ・ 講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ・ でいて ・ 関わる実験手法 ・ と内容の発表【プレゼン ・ における遺伝子、ゲン が研究の実施【実習】 ・ 研究の結果のまとめ ・ 究課題におけるゲノム	ら履修することができる。 登料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画 / ム解析方法の検討 (解析内容によりPCによるdry解析	ねること。		教・出 教・ 教・出	版社名1 SBN1 版社名2	担当者
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに 第3回 ゲノム解析に 第4回 修士論文研究 第6-11回 ゲノム解析に 第12回 ゲノム解析に 第13回 修士論文研究 第14、15回 植物ゲ 教科書 教・書籍名1 教・著者名1 教・著者名2	はる ・ 講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ・ でいて ・ 関わる実験手法 ・ と内容の発表【プレゼン ・ における遺伝子、ゲン が研究の実施【実習】 ・ 研究の結果のまとめ ・ 究課題におけるゲノム	ら履修することができる。 登料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画 / ム解析方法の検討 (解析内容によりPCによるdry解析	ねること。		教・出 教・ 教・出	版社名1 SBN1	担当者
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに第3回 ゲノム解析に第4回 修士論文研究第6-11回 ゲノム解析である) 第12回 ゲノム解析である) 第12回 ゲノム解析で第13回 修士論文研究第14、15回 植物ゲ教科書 教・書籍名1 教・書籍名2 教・著者名2	はる ・ 講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ・ でいて ・ 関わる実験手法 ・ と内容の発表【プレゼン ・ における遺伝子、ゲン が研究の実施【実習】 ・ 研究の結果のまとめ ・ 究課題におけるゲノム	ら履修することができる。 登料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画 / ム解析方法の検討 (解析内容によりPCによるdry解析	ねること。		教・出 教・ I 教・ I	版社名1 SBN1 版社名2 SBN2	担当者
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに 第3回 ゲノム解析に 第4回 修士論文研究 第5回 修士論文研究 第6-11回 ゲノム解析に 第13回 修士論文研究 第14、15回 植物ゲ 教科書 教・書籍名1 教・著者名1 教・著者名2	はる ・ 講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ・ でいて ・ 関わる実験手法 ・ と内容の発表【プレゼン ・ における遺伝子、ゲン が研究の実施【実習】 ・ 研究の結果のまとめ ・ 究課題におけるゲノム	ら履修することができる。 登料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画 / ム解析方法の検討 (解析内容によりPCによるdry解析	ねること。		教・出 教・出 教・出 参・出	版社名1 SBN1 版社名2	担当者
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 ゲノム、DNA 第2回 植物ゲノムに第3回 ゲノムに解析に第3回 修士論文研究第6-11回 ゲノム解析になる) 第12回 ゲノム解析に第13回 修士論文研究第14、15回 植物ゲ教科書 教・書籍名1 教・書籍名2 教・著名2 参考書 参・書籍名1	はる ・ 講義で配布する資 毎週金曜日12:45 A、遺伝子について ・ でいて ・ 関わる実験手法 ・ と内容の発表【プレゼン ・ における遺伝子、ゲン が研究の実施【実習】 ・ 研究の結果のまとめ ・ 究課題におけるゲノム	ら履修することができる。 登料を復習し、理解できない点は尋 ~13:25をオフィスアワーとする。 授業計画 / ム解析方法の検討 (解析内容によりPCによるdry解析	ねること。		教・出 教・ ・出 ・出 ・出 ・出 ・出	版社名1 SBN1 版社名2 SBN2	担当者

授業科目名	栽培・育種学演習 20	22年度生		担当者		谷坂	隆俊	
	2017~2018年度 吉	備国際大学 大学院	地域創成農研究					
配当学科・研究科	科 地域創1年/ 2018	~ 2022年度 吉備	国際大学 大学院	ナンバリ	ング			
	地域創成農研究科 地	域博1年						
必修・選択	選択	単位数 8単	位	時間数	30		授業形態	毎週・対面式
年次	1年	開講期	2022年度春	4期		曜日・	時限 集中請	講義
								な水とトイレを世界 豊かさを守ろう/1
	5. 陸の豊かさも	も守ろう						
SDGs関連項目	2 NMを 3 すべての人に できた	4 質の高い教育を 6 安全な水とトイレ を世界中に	9 産業と技術革新の 13 気候変動に 高性をつくろう	14 海の最かさを 15 際の費	15086			
	<u>""</u> –₩ ^				<u>**</u>			
	人類は、採集生活	舌の経験のなかで、	毒性がなく、栄	養・貯蔵性・治	食味に優	憂れた植?	物を熟知し、	その種子を住居の近
	くに播いて栽培を	を行うようになった	た。このように、	もっとも初期	の植物育	育種は、!	野生植物の中	から作物となりうる
	ものを選び出する	ことであった。その	の過程において、	脱粒性、休眠	性など野	予生植物:	が増殖するう	えでは重要である
	が、栽培植物とし	して不都合な性質を	を淘汰し、栽培が	容易で、収量	が高く、	品質の	よいものを選	び続けてきた(図1-
	2-2-1)。このよ	うに、育種は、人	類が生きていく7	ためのもっとも	重要な	営みとし	て、耕種農業	巻の開始より今日に至
到達目標								た芸術作品である。
								を担っており、本講
								に親しむ姿勢を醸成
								頭発表し、これをもの日的とする
	こしてい字術論と	文の内容について記	m譲りる。 これに	ょって研究の	流れを塩	#胖させ	っことを最大	い日別とする。
	曲光(曲井),一	+ 玄恁しおやのへ	の側面がもり	単光生 幸る中ご	コルレタ	口 / レ / ー / -	- 女徒に当り	音の2つの側面からの
								質・食味改善育種な
			,					る研究、さらに作物
授業概要								び育種学、栽培学に
以未例女								種学および栽培学に
					-			は栽培学に関する論文
	を紹介してもらっ							
アクティブラーニン:	グの ディスカッション	ン/ディベート/フ	プレゼンテーショ	ン/実習				
内容	-11 -26 -1 -24 -24							
評価方法と割合	講義中の論議のP	内容、発表の優秀性	生およびレポート	の内容によって	て判定す	「る		
ルーブリック評価	18							
課題や試験のフィー	学生に直接口頭等	等の方法によってこ	フィードバックす	る				
バック方法 履修条件・注意事項	植物苔種学 造化	云学、土壌微生物学	サー共体党の甘醂	知識なりって	1、スァレ	,		
腹惨条件・注息事項 事前学習・事後学習。		ムナ、工場 阪生物	ア、私知子の圣姫	745以でもつ (v·⊘ ∟ č	-		
の時間	紹介される論文を	を徹底的に読み、現	里解すること。そ	れでもわから	ない場合	合には担	当教員に直接	質問すること。
オフィスアワー	いつでも可	極業∃∃						扣 小 ↑
<u></u> 春学期		授業計画	2					担当者
	関する学術論文の紹介	介₋1 (扫坐数昌)						
	- 関する学術論文の紹介 - 関する学術論文の紹介							
	- 以りて子州論文の和) - レス(地球温暖化、草		などの重全尾法塾	など) に対す	る抵抗性	‡ • 耐性	育種 (:⁻	
関する学術論文の紹		FUNK MICIAL	5.こシ王业病/7木	. J. C. / VC/J. J	ა ე <u>ლ</u> ეეს _	בן נעין ב		
	・レス(地球温暖化、草	乾燥、カドミウム ⁵	などの重金属汚染	など) に対す	る抵抗性	生・耐性	 育種に	
関する学術論文の紹介			·		→ J=>J/U =	— Leal —	, , , , , , ,	
	・ス(病害虫、雑草なる	ど)に対する抵抗!	生・耐性育種に関	する学術論文	の紹介-	1 (担当	▲ 教員	
	害虫、雑草など)に対							
	、ス(病害虫、雑草なる					,	4教員	
物的ストレス (病質	害虫、雑草など)に対	する抵抗性・耐性	育種に関する学行	 討論文の紹介-	1 (担当	á教員)		
7回目 学生による育	育種学研究に関する学 行	析論文の紹介						
8回目 適応性育種に	関する研究の成果の約	紹介-1(担当教員)						
•							ı	

9回目	適応性育種に関する研究の成果の紹介-2(担当教員)	ĺ	
10回目	品質・食味育種に関する学術論文の紹介-1(担当教員)		
11回目	品質・食味育種に関する学術論文の紹介-2(担当教員)		
12回目	土づくりに関する学術論文の紹介-1(担当教員)		
13回目	土づくりに関する学術論文の紹介-1(担当教員)		
14回目	学生による育種学またはに関する土づくりに関する学術論文の紹介		
15回目	教員と学生全員による総合討論		
秋学期			
1回目	世界の多収性育種に関する研究の現状と未来(担当教員)		
2回目	日本の多収性育種に関する現状と未来(担当教員)		
3回目	環境変動対応育種に関する現状と依頼(担当教員)		
4回目	非生物的ストレスに対する抵抗性・耐性育種に関する現状と未来(担当教員)		
5回目	生物的ストレス(病害虫、雑草など)に対する抵抗性・耐性育種に関する現状と未来(担当教	汝員)	
6回目	学生による育種学研究に関する学術論文の紹介		
7回目	植物の開花に関する遺伝(担当教員)		
8回目	イネの北進はなぜできたか(担当教員)		
9回目	コシヒカリを超える良食味イネ品種の育成は可能か(担当教員)		
10回目	生物の進化に必須の転移因子(担当教員)		
11回目	ゲノム編集による品種育成(担当教員)		
12回目	農林水産省「緑の食料戦略システム」における育種および土づくりの役割(担当教員)		
13回目	担当教員が開発した土づくり資材について(担当教員)		
14回目	学生による土づくりに関する学術論文の紹介		
15回目	教員と学生全員による総合討論		
教科書			
教・書籍	籍名1 紹介する学術論文をよく読むこと。教科書は使わない。 オートリング オート	数・出版社名1	
教・著	者名1	牧・ISBN1	
教・書籍	籍名 2	枚・出版社名2	
教・著	者名2	牧・ISBN2	
参考書			

教科書			
教・書籍名1	紹介する学術論文をよく読むこと。教科書は使わない。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

図目の主義の表現	授業科目名	栽培・育種学専攻実	験 2022年度生			担当者	<u>′</u>	谷坂	隆俊、	桧原	健一	郎、氷	見 芽	 英子
### ### ### ### ### ### ### ### #### ####		2017~ 2018年度 吉	備国際大学 大	学院	地域創成農研究									
単位 14 17 18 18 18 18 18 18 18	配当学科・研究科	科 地域創1年/ 2018	3~ 2022年度 記	吉備国	国際大学 大学院	ナンバリ	ング							
有次		地域創成農研究科 地	域博1年											
2. 単純をゼロに/9. 産業と技術主新の基盤をつくろう/13. 気候変物に具体的な対策を 1	必修・選択	選択	単位数	8単位	位	時間数	120		授	業形態	実習	2		
日早の人口は増加の一会をたどっており、食種中産の向上が必須である。作物の高級量類申は多数の因子が像押に結め合うとしまり、環境、接地方法、結婚とどの課に関わら起子は多くの表して、大世級の大田である。そこで植物の生育場の必要となる企画力や実行力、スケジュール管理能力等を養う。また、専門別知識を持つ農業の担い手やアドバイザー等の自成に関係する。 大器は利用の意志では変えることが可能である。またま態理学を認時ま、あるいら植物に必要な栄養主活自己た実験を行う。とうに並加テレベルでの実験を行い、収量や形態に関わる遺伝子の選売を行う。とうに並加テレベルでの実験を行い、収量や形態に関わる遺伝子の選売を行う。とうに並加テレベルでの実験を行い、収量や形態に関わる遺伝子の選売を行う。とうに並加テレベルでの実験を行い、収量や形態に関わる遺伝子の選売を行う。持つれた規率については関外の原理法学等を考えまとされ、収量や形態に関わる遺伝子の選売を行う。持つれた規率については関外の原理法学等を考まとさらは、関帯論など制金を受けるとのでは、関節を生める値力、修士論文の内容、専文実験のテーマの顧易度などにより限合が認めのフィード パック方法 「製造を辿るこのたっては実験本法の関係やデータの記録、保管等が拠めて重要となる。このため、必ず当初から実施とよりまたのでは、実験主法の関係やデータの記録、保管等が拠めて重要となる。このため、必ず当初から実施ノード・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・タ・の記録、保管等が拠めて重要となる。このため、必ず当初から実施ノード・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア	年次	1年	開	講期	2022年度春学	:期		曜日	・時限	集中	講義			
世界の人口は地加の 送をたどっており、食産生産の向上が必須である。作物の高収量業性は多数の図子が複種に 「然か合っており、環境、数均方法、結婚など収集に関わる過子は多株である。そこで植物の生産境域や地域方法、 さらに結婚間性と有い高極関条に関する実験を行う。2年間の認義を通じて、大学院様子後上社の名方面で必要とな 会企画が代表行力、スケジュールを理解が事を考う。また、胃で的対議を持つ事業の世い手やアドバイザー等の育 技に高以する。		2. 飢餓をゼロ	こ/9. 産業と	:技術	j革新の基盤をつ	くろう/13.	気候変	動に具	体的な	な対策を	È			
競斗日福	SDGs関連項目		13 янхын											
提業観要 た実験であることが可能である。また施肥量や施肥時期、あるいは植物に必要な栄養素に着目した実験を行う。もらに遺伝子レルでの実験を行い、収量や形形に関わる遺伝子の調査を行う。得られた成果については国内外の関連学会等で発表するとともに、原著論文として国際法に投稿する。また、景終的には修士論文に収りまとめるほか、開発された技術等は各地の農業網係機関や団体、企業に情報を提供して実用化を図る。 アクティブラーニングの内容 実施に取り組む姿勢、得られた結果を取りまとめる能力、修士論文の内容、専攻実験のテーマの難易度などにより総合評価する。 ループリック評価 課題や試験のフィードバックを行う。 アック方法	到達目標	絡み合っており、 さらに品種間差 る企画力や実行:	環境、栽培力 と新品種開発に	ī法、 ニ関す	品種など収量に る実験を行う。2	関わる因子は彡 2年間の経験を	多様であ 通じて、	る。そ 、大学	こで村院修了	直物の生 後に社	三育環 ⁵ 会の各	竟や栽 方面で	培方法 『必要	<u></u> とな
内容 実際に取り組む姿勢、得られた結果を取りまとめる能力、修士論文の内容、専攻実験のテーマの難易度などにより	授業概要	り環境が及ぼする た実験を行う。 いては国内外の	影響を調査する さらに遺伝子レ 関連学会等で発	ること レベル Ě表す	が可能である。 での実験を行い、 るとともに、原	また施肥量やが 収量や形態! 著論文として[布肥時期 こ関わる 国際誌に	引、ある 遺伝子 :投稿す	いは いま この調 こる。 ま	直物に必 査を行う また、最	が要な う。得 最終的(栄養素 られた。 には修	に着目 成果に 士論文	してつ
# 会評価する。 ルーブリック評価 課題や試験のフィード パック方法		グの 実習												
ルーブリック評価 課題や試験のフィード バック方法 最短を進めるにあたっては実験手法の習熟やデータの記録、保管等が極めて重要となる。このため、必ず当初から 実験 イートやパソコン用の記録媒体を用意すること。また、Excelを用いたグラフ作成や統計、powerpointを用いた 作図法なども事前に修得していることが望ましい。また、2年間を通じて履修する科目であるが、授業計画に示した 内容に対して、半期ごとに実験技術及び知識等の習得状況を確認し、達成が不十分な場合は、補習等を行う。 事前学習・事後学習とそ 得られた実験データ等に関して、担当教員と議論することになるので、研究の背景や目的、関連研究の進歩状況等 を十分理解できるよう努める 現人研究室において、毎週金屋目12時45分~13時25分の間実施する 「存学期」 「存学期」 「存学期」 「存学期」 「保藤健一郎/谷坂隆俊/氷 第1回 ガイダンス(研究室・研究施設の説明) 第3回 研究課題の選択(教員からの提示) 第3回 研究課題の選択(教員からの提示) 第5回 実験器具・機器の取り扱い講習 第6回 研究材料育成に関わる関連整備と温室準備 第7回 研究材料自成に関わる関連整備と温室準備 第7回 研究材料の基準 第1回 生育調査すよび材料採種 第11回 生育調査すよび材料採種 第11回 研究材料の基種 第11回 研究材料の基種 第11回 研究材料の基種 第11回 研究材料の基種 第11回 研究材料の基種 第11回 研究材料の表種 第11回 研究材料の表色 第13回 生育調査もよび材料採種 第11回 研究材料の表種 第14回 表現型観察のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進歩状況の報告	評価方法と割合		姿勢、得られ <i>た</i>	結果	見を取りまとめる	能力、修士論な	文の内容	7、専攻	文実験の	カテーマ	アの難	易度な	どによ	; 1)
### (第10 回 報告	ルーブリック評価													
実験を進めるにあたっては実験手法の習熟やデータの記録、保管等が極めて重要となる。このため、必ず当初から 実験ノートやパソコン用の記録媒体を用意すること。また、Excelを用いたグラフ作成や統計、powerpointを用いた 作図法なども事前に修得していることが望ましい。また、2年間を通じて履修する科目であるが、授業計画に示した 内容に対して、半期ごとに実験技術及が知識等の習得状況を確認し、達成が不十分な場合は、補習等を行う。 事前学習・事後学習とそ 得られた実験データ等に関して、担当教員と議論することになるので、研究の背景や目的、関連研究の進捗状況等 を十分理解できるよう努める オフィスアワー 個人研究室において、毎週金曜日12時45分~13時25分の間実施する 援業計画 担当者 【春学期】	課題や試験のフィー	F		/-	- ~									
実験ノートやパソコン用の記録媒体を用意すること。また、Excelを用いたグラフ作成や統計、powerpointを用いた	バック方法	毎回の実験時に	ノイートバック	/を行	「つ。									
の時間 を十分理解できるよう努める オフィスアワー 個人研究室において、毎週金曜日12時45分~13時25分の間実施する 【春学期】 投業計画 担当者 第2回 研究課題の選択(教員からの提示) 第3回 研究課題の決定 第4回 圃場、温室(植物工場を含む)及び実験室での安全講習 第5回 実験器具・機器の取り扱い講習 第6回 研究材料育成に関わる圃場整備と温室準備 第7回 研究材料となる植物の播種 簡極物の生育調査と観察 第9回 交配実験 第10回 生育調査および材料採種 第11回 類微鏡を用いた植物の観察 第12回 研究材料の採種 第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進捗状況の報告		実験ノートやパ 作図法なども事 内容に対して、	ソコン用の記録 前に修得してい 半期ごとに実駆	禄媒体 いるこ 食技術	を用意すること。 とが望ましい。 「及び知識等の習行	。また、Excel また、2年間を 得状況を確認し	を用い <i>7</i> 通じて/ ン、達成	たグラ 履修す ネが不┤	フ作成 る科目 -分な ^均	や統計 である 場合は、	、pow が、授 補習 ⁹	verpoin 受業計画 等を行	itを用 画に示 う。	いたした
提業計画 担当者				、担	2当教員と議論する	ることになるの	かで、研	F究の で	景や目	目的、閉	関連研?	究の進	捗状況	?等
特別	オフィスアワー	個人研究室にお	いて、毎週金曜	呈日12	2時45分~13時25	分の間実施す	る							
第1回 ガイダンス(研究室・研究施設の説明) 第2回 研究課題の選択(教員からの提示) 第3回 研究課題の決定 第4回 圃場、温室(植物工場を含む)及び実験室での安全講習 第5回 実験器具・機器の取り扱い講習 第6回 研究材料育成に関わる圃場整備と温室準備 第7回 研究材料となる植物の播種 第8回 植物の生育調査と観察 第9回 交配実験 第10回 生育調査および材料採種 第11回 顕微鏡を用いた植物の観察 第12回 研究材料の採種 第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進捗状況の報告			授業	計画	İ							担当者		
第2回 研究課題の選択(教員からの提示) 第3回 研究課題の決定 第4回 圃場、温室(植物工場を含む)及び実験室での安全講習 第5回 実験器具・機器の取り扱い講習 第6回 研究材料育成に関わる圃場整備と温室準備 第7回 研究材料となる植物の播種 第8回 植物の生育調査と観察 第9回 交配実験 第10回 生育調査および材料採種 第11回 顕微鏡を用いた植物の観察 第12回 研究材料の採種 第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめとドの 第15回 進捗状況の報告	【春学期】									桧原	健一郎	3/谷坜	反隆俊	/氷
第3回 研究課題の決定 第4回 圃場、温室(植物工場を含む)及び実験室での安全講習 第5回 実験器具・機器の取り扱い講習 第6回 研究材料育成に関わる圃場整備と温室準備 第7回 研究材料となる植物の播種 第8回 植物の生育調査と観察 第9回 交配実験 第10回 生育調査および材料採種 第11回 顕微鏡を用いた植物の観察 第12回 研究材料の採種 第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進捗状況の報告			明)							見英	子			
第4回 圃場、温室(植物工場を含む)及び実験室での安全講習 第5回 実験器具・機器の取り扱い講習 第6回 研究材料育成に関わる圃場整備と温室準備 第7回 研究材料となる植物の播種 第8回 植物の生育調査と観察 第9回 交配実験 第10回 生育調査および材料採種 第11回 顕微鏡を用いた植物の観察 第12回 研究材料の採種 第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進捗状況の報告														
第5回 実験器具・機器の取り扱い講習 第6回 研究材料育成に関わる圃場整備と温室準備 第7回 研究材料となる植物の播種 第8回 植物の生育調査と観察 第9回 交配実験 第10回 生育調査および材料採種 第11回 顕微鏡を用いた植物の観察 第12回 研究材料の採種 第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図														
第6回 研究材料育成に関わる圃場整備と温室準備 第7回 研究材料となる植物の播種 第8回 植物の生育調査と観察 第9回 交配実験 第10回 生育調査および材料採種 第11回 顕微鏡を用いた植物の観察 第12回 研究材料の採種 第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進捗状況の報告			実験室での安全	講習	I									
第7回 研究材料となる植物の播種 第8回 植物の生育調査と観察 第9回 交配実験 第10回 生育調査および材料採種 第11回 顕微鏡を用いた植物の観察 第12回 研究材料の採種 第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進捗状況の報告			NO											
第8回 植物の生育調査と観察 第9回 交配実験 第10回 生育調査および材料採種 第11回 顕微鏡を用いた植物の観察 第12回 研究材料の採種 第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進捗状況の報告			温室準備											
第9回 交配実験 第10回 生育調査および材料採種 第11回 顕微鏡を用いた植物の観察 第12回 研究材料の採種 第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進捗状況の報告														
第10回 生育調査および材料採種 第11回 顕微鏡を用いた植物の観察 第12回 研究材料の採種 第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進捗状況の報告	=	間盆と観察												
第11回 顕微鏡を用いた植物の観察 第12回 研究材料の採種 第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進捗状況の報告		1. 7011401-74												
第12回 研究材料の採種 第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進捗状況の報告														
第13回 生育調査のまとめとデータ解析 第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進捗状況の報告		1 1.0												
第14回 表現型観察のまとめと作図 第15回 進捗状況の報告	第12回 研究材料の													
第15回 進捗状況の報告	竺10回 上六四十一	ナレメレー・ ケカル												
【秋学期】	第14回 表現型観察	のまとめと作図												
I I	第14回 表現型観察	のまとめと作図												

版社名1
SBN1
版社名2
SBN2
版社名1
SBN1
版社名2
SBN2
77

第1回 研究計画作成

第3回 研究材料の播種

第2回 研究材料育成用の圃場の整備と温室準備

授業科目名	植物保護学特論		担当有	\$	森野	真理、相	野公孝
	2017~2018年度言	5備国際大学 大学院 地域創成農研究					
配当学科・研究科	科 地域創1年/ 201	8~ 2022年度 吉備国際大学 大学院	ナンバリング				
	地域創成農研究科 均	也域博1年					
必修・選択	選択	単位数 2単位	時間数	30		授業形	態 講義
年次	1年	開講期 2022年度春学	:期		曜日	・時限	集中講義
	2. 飢餓をゼロ	に/12.つくる責任・つかう責任人	/15. 陸の	豊かさる	も守ろう	Ō	
SDGs関連項目	2 新華を ゼロに 12 つくる責任	15 ROBAGE 953					
	<u> </u>						
	持続可能な農業	の実現には、「作物生産の向上」と	「地域環境の	保全」(の相反す	↑る事象を	 両立させる必要がある。
지수 모 4표	この困難な課題	の解決を目指し、次世代型の植物保護	護や作物管理	に関する	る研究を	を推進する	ために、植物保護管理学
到達目標	における深い知	識と卓越した技術力、洞察力、企画	力を修得し、	本分野の	のエキス	スパートと	して活躍できる人材を育
	成する。						
	植物病害防除に	対して、化学合成農薬の代替となり	导る病原菌と	微生物	及び作物	かの相互関	係を利用した生物的防除
	に関して、生物	的防除の歴史から始まり、有用微生物	物の選抜方法	、効果料	判定法及	及びフィー	ルドでの効果検証までの
授業概要	一連の流れを論	述し、農業生態系内での、病原菌、征	微生物及び作	物間の額	密接な関	関係を習得	する。また、農業生産活
	動における獣害	および侵略的外来種の実態と問題の	背景、防除の	方法・制	訓度や訓	果題につい	て解説し、近年、野生動
	物の保護管理計	ー 画制度の基礎となっている順応的管理	浬について紹	介する。			
アクティブラーニン: 内容	 グの ディスカッショ	×					
<u>ドロイン</u> 評価方法と割合	試験およびいぜ						
ルーブリック評価	BEUMAN OF THE						
課題や試験のフィー	ľ.						
バック方法	個別のディスカ	ッションにより行う。					
履修条件・注意事項		するので、第1回目授業からファイル	ルを準備する	こと。ま	また、話	構義で用い	たスライドの配布を希望
		SBメモリーを用意すること。 					
事前学習・事後学習の時間	とそ 毎回の指示に従	って予習と復習を行うこと。					
オフィスアワー	久回の埒業後に	担当教員が対応する。					
3 7 1 2 7 7	音画の技术後に	授業計画					 担当者
 1. 微生物農薬の歴史		及未们巴				*	
2. 微生物農薬に関す	ろ法令						条野真理
3. 効果発現メカニズ						N.	(12) 5-C-I
4. 細菌・放線菌によ							
5. 細菌・放線菌によ	, , ,						
6. 細菌・放線菌によ	, , ,						
7. 細菌・放線菌によ	, , ,)					
8. 糸状菌による生物							
9. 糸状菌による生物							
10. 糸状菌による生物	物防除(その3)						
11. 糸状菌による生物	物防除(その4)						
12. ウイルスによるワ	フクチン製剤						
13. 微生物農薬開発手	手法 (その1)						
14. 微生物農薬開発手	手法 (その2)						
15. 微生物農薬の将来	K展望						
16. まとめ							
教科書							
教・書籍名1 特にな	: L				教・は	出版社名1	
教・著者名1					教・	ISBN1	
教・書籍名2					教・は	出版社名2	
教・著者名2					教·	ISBN2	
参考書							
参・書籍名1					参・片	出版社名1	
					_		

参・著者名1	参・I S B N 1	
参・書籍名2	参・出版社名2	
参・著者名2	参・ISBN2	

授業科目名	植物病理学特論		担当者	眞山 滋志、村上	二朗、相野 公孝
	2017~2018年度	医吉備国際大学 大学院 地域創成農研究	2		
配当学科・研究科	科 地域創2年/2	2018~2022年度 吉備国際大学 大学院	ナンバリング		
	地域創成農研究科	斗地域博2年			
必修・選択	選択	単位数 2単位	時間数 30	授業形態	講義
年次	2年	開講期 2022年度春年	学期	曜日・時限集中	講義
	2. 飢餓をセ	ざロに/12.つくる責任・つかう責任	∕ 15. 陸の豊かさ	も守ろう	
SDGs関連項目	2 sint 12 3	2<6責任 15 場の書かさも つかう数質			
3003因建模日	<u> </u>				
	食料の安定的	内供給は農作物の安定した第一次生産に	依存するが、植物の	安定的生産は病虫害	などに対する保護なし
到達目標	には得られな	い。したがって、本講義のテーマは、	植物病害に関する最	新の科学的な知見に	ついて熟知することで
	あり、その目	目標は、安全で安定した植物生産を確か	にする植物病害防除	法の開発に貢献する	ことである。
	植物の病害発	&生は、病原体の病原性発現と植物の防	i御応答との攻防の結	果である。本講では、	、植物と病原体の相互
	認識応答に関	関わる遺伝子とその産物、抵抗性および	『病原性発現に関わる	生理活性物質とゲノ.	ム解析など植物感染科
		情報について論じる。また、輸出農作物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
授業概要		その産生菌の制御を目的とする迅速、	簡便な遺伝子診断法	などの研究開発につい	いて学習する。
)ある教員による授業科目	- 1 W. II	_, _, ,	1 // / == /== / - / -
		こついて、相野は38年間公的研究機関に	おいて日宮的に実施	していた項目であり、	、十分な実績を有して
	いる。				
アクティブラーニン	クの ディスカッシ	/ ョン			
内容	1 12 1 1 - 1				
評価方法と割合 ルーブリック評価	レホートによ	いいにはいる。			
課題や試験のフィー	L*				
ボック方法	授業内でのテ	ディスカッション			
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	************************************		ルを進備すること	また 講義で用いた	フライドの配布を差望
履修条件・注意事項		USBメモリーを用意すること。	ルを牛畑すること。	よん、時我で用いた	ハノイトの配用で和重
事前学習・事後学習		2/11/25 7 2/11/25 7 2/12/20			
の時間	毎回の指示に	二従って予習と復習を行うこと。			
オフィスアワー	各回の授業後	。 とに担当教員が対応する。			
		授業計画			担当者
第1回 ガイダンス				相野	
第2回 宿主特異性の	D遺伝的背景			眞山	ı滋志
第3回 抵抗性発現の	Dシグナル伝達			眞山	」滋志
第4回 過敏感反応と	こ 過敏感細胞死			眞山	」滋志
第5回 抗菌性物質の	D生成			眞山	ı滋志
第6回 病原体の病原	原性発現機構			相野	予公孝
第7回 感染に対する	る宿主細胞反応			1.00	3公孝
第8回 病原性発現に	に関わる物質生産			相野	3公孝
第9回 病原性遺伝子		,		相野	3公孝
第10回 病原性遺伝子		(菌)			3公孝
第11回 病原微生物の					二朗
第12回 植物病害の診					二二朗
第13回 植物病害の防					二二朗
第14回 カビ毒の診断	•				二二朗
第15回 カビ毒の防防					-二朗
第16回 まとめ・ディ	· スカッンョン			相對	^予 公孝
教科書				Let	
				7/r 111 UG 71 /7 1	
教・書籍名1				教・出版社名1	
教・書籍名1 教・著者名1				教・ISBN1	
教・書籍名1教・著者名1教・書籍名2				教・ISBN1 教・出版社名2	
教・書籍名1 教・著者名1				教・ISBN1	

参・書籍名1	日本植物病理学会誌	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	植物保護学演習 202	2年度生	担当者		森野	真理、柞	士上	二朗、相野 公孝
	2017~2018年度 書	5備国際大学 大学院 地域創成農研究						
配当学科・研究科	科 地域創1年/ 201	8~ 2022年度 吉備国際大学 大学院	ナンバリ	ング				
	地域創成農研究科 地	也域博1年						
必修・選択	選択	単位数 8単位	時間数	120	•	授業界	形態	演習
年次	1年	開講期 2022年度春学	:期		曜日	・時限	集中記	構義
	2. 飢餓をゼロ	に/12. つくる責任・つかう責任	/15. 陸の	豊かさも	守ろう	j .		
SDGs関連項目	2 新版を 2 かのに 12 つくる責任 つかり責任	15 #08004						
3 D G 3 民建項目	<u>""</u> CC	↑ **						
	植物保護のうち	病害や獣害を対象とする。病害対策(は依然として	化学的阶	ち除にオ	こきく 依存	して	いるが、その軽減に
	もつながる作物	の病害抵抗性品種や病害抵抗誘導剤、	生物由来の	資材なと	ごを利用	目した代替	防除	技術について理解を
到達目標	深める。また、	分子生物学的手法を用いた病原体や	マイコトキシ	ン生産菌	歯の診断	f、獣害の	実態	把握や生態系管理と
刘连口惊	対策の構築など	について2年間学ぶ。これを通じて、	大学院修了後	とに社会	の各方	面で必要	となる	る文書作成やプレゼン
	テーションの能	力のを養うと共に、専門的知識を持っ	つ専門知識を	持つ農業	どの担い	・手や植物	保護	アドバイザー等の育
	成に貢献する。							
	作物保護とりわ	けレタスビックベイン病、イネ科作	物赤カビ病菌の	のマイニ	1トキシ	/ン、獣害	発生	の要因、防除管理の
		生動物の生態特性などに関する国内の						
	選抜・熟読し、	レジュメやパワーポイントなどにま	とめて発表を	行う。角	後表内容	字に関して	教員	や他の学生との質疑
		い、文書作成やプレゼンテーション						_
授業概要		実験のブラッシュアップにつなげた	り、必要に応	じて現地	也調査や	·関連機関	への	ヒアリングなどの
	フィールドワー							
		る教員による授業科目						
		いて、相野は38年間公的研究機関に	おいて日常的	に実施し	していた	こ 埧目で あ	59、	十分な実績を有して
	いる。							
アクティブラーニン	グのディスカッショ	ン/プレゼンテーション						
内容	※ まの おに 佐 代	コナ副左次則ら 20 - ポノハレラニ	/ いの所 ※	+ 以巫1-	+ ケン a	公松-九 正	ī 1 – 1 +	仏社の改まに対して
評価方法と割合		にた配布資料やパワーポイントスラー ているかなど、演習態度も加味して終)合えり) 能力、ま	! h_ hd	他任の発表に対しく
ルーブリック評価	何堅的に負向し /URL/tiiki.pdf	こいるがなる、	応口計画する。	>				
課題や試験のフィー								
ボック方法	教員とのディス	カッション						
履修条件・注意事項	毎回資料が配布		を用音する?	٠ ٢ ـ				
	7 7 1 1	課題は事前に連絡されるので、その			5. ± t	-	∓ <i>(,</i> □ 西戸	 布される資料を事後
の時間		復習する。理解できない点があれば			-		, дс	THE THURST OF THE
		スアワーを設定する。(曜日・時間は				-		
オフィスアワー			.,,,,,					
		授業計画						担当者
(1) 植物保護に関し	して各自が解決したい	研究課題を選択決定できること、				;	相野公	 公孝
(2) それを追求する	るための実験・調査計	画の立案(背景、目的、実験材料及	び方法など)、	、実験や	う調査を	を遂行の	森野耳	 真理
ための技術・手法の	習得ができること、					;	村上二	二朗
(3) 結果の解析・評	平価法、考察の在り方	について学び、学術論文の書式につ	いても理解す	ることに	こついて	、 適宜		
課題を設定してゼミ	形式で学習を進める。	また、研究・調査課題の遂行に必要	な実験・調査	Ē手法に	ついて	も指導		
を行う。								
これら3項目について	て、学生の学習状況に	合わせて適宜繰り返し指導する。						
教科書								
教・書籍名1	資料を配布				教・占	出版社名:		
					教·	I S B N 1		
教·著者名1								
	: L				教・占	出版社名2		
教・著者名1 教・書籍名2 特にな	: L					出版社名2 I S B N 2		
教・著者名1	: L							
教・著者名1 教・書籍名2 特にな 教・著者名2					教・			

参・書籍名2	特になし	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	植物保護学専攻実駅	食 2022年度生	担当者	旨	村上 二朗、	相野 公孝
	2017~2018年度	吉備国際大学 大学院 地域創成農研究				
配当学科・研究科	科 地域創1年/ 201	18~ 2022年度 吉備国際大学 大学院	ナンバリ	ング		
	地域創成農研究科	地域博1年				
必修・選択	選択	単位数 8単位	時間数	240	授業	実験・実習
年次	1年	開講期 2022年度春学	期		曜日・時限	集中講義
	2. 飢餓をゼロ	1に/12.つくる責任・つかう責任/	/15. 陸の	豊かさも	う守ろう	
SDGs関連項目	2 สเส	任 15 時の見かさも 15 中の見かさも				
	<u>"</u> «					
		除防除は依然として化学的防除に大き				
7011年日4番		病害抵抗性誘導剤など代替防除技術の利 スペ悪いなるの悪力は内容力			-	
到達目標		面で必要となる企画力や実行力、スケシ イボー第の奈成に素材され	ノュール官埋	能力寺を	ど養り。また、	専门的知識を持つ農業の担
	い手やアトハイ	′ザー等の育成に貢献する。				
	佐畑伊港とりも	 oけバイオロジカルコントロールやマ^	イコトキミハ バ	ナンビニー則	見し マ鉱地 州 レ	中田的価値の言い史験を行
		プリハイオロシカルコンドロールやマネ 以果については国内外の関連学会等で多				
		A文にとりまとめるほか、開発された打				
授業概要	して実用化を図		文的 4 18 日 26、			、工术に旧様に旧様と近代
		5る教員による授業科目 5				
		ついて、相野は38年間公的研究機関に	おいて日常的	に実施し	していた項目で	あり、十分な実績を有して
	いる。					
アクティブラーニン	グの					
内容	ディスカッショ	ョン/プレゼンテーション				
シャー・ション マック	実験に取り組む)姿勢、得られた結果を取りまとめる負	能力、修士論:	文の内容	マ、専攻実験の	テーマの難易度などにより
評価方法と割合	総合評価する。					
ルーブリック評価	/URL/tiiki.pdf					
課題や試験のフィー		コッションにより行う				
バック方法	[ED] \$2.7 (1.27)					
	実験を進めるに	当たっては実験手法の習熟やデータ-	-の記録、保存	管等が極	返めて重要とな	:る。このため、必ず当初か
		アパソコン用の記録媒体を用意すること	と。また、Ex	celを用	いた作図法なる	ども事前に習得していること
履修条件・注意事項				-		
		通じて履修する科目であるが、授業計		羽容に対	して、半期ご	とに実験技術及び知識等の習
+*************************************		ノ、達成が不十分な場合は、補習等を行		7	- 東京の北日小	
		データー等に関して、担当教員と議論で できるように務めること。実験準備やA				'日的、関連研究の進捗状况
の時間	寺を下が理解(でるように傍めること。夫熈华佣や人	┐別りも里安	<i>Cの</i> る。		
	週に1回オフィ	 スアワーを設定する。(曜日・時間は	研究室のドブ	71-掲示	する)	
オフィスアワー	過に国のフィ		WINE VI	(C)(g)/)(9.0)	
						担当者
研究課題の選択、実	 験器具・機器の扱い		の準備方法、	病原菌	 の採集、保	相野/村上
存、接種方法、デー						
教科書						
事前に	資料を配布					
教・書籍名1					教・出版社名	4.1
教・著者名1					教・ISBN	11
教・書籍名2					教・出版社名	
教・著者名2					教・ISBN	12
参考書					A .1.0=11	
参・書籍名1 特にな					参・出版社名	5 I
(2) He 11 (2)					45	
参・著者名1					参・ISBN	1 1

参・書籍名2	特になし	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	食品栄養機能学特論	担当者 土井	谷司、林 将也
	2017~ 2018年度 吉備国際大学 大学院 地域創成農研究		
配当学科・研究科・	斗地域創1年/2018~2022年度 吉備国際大学 大学院	ナンバリング	
封	地域創成農研究科 地域博1年		
必修・選択	選択 単位数 2単位	時間数 30	授業形態 講義
年次 1	開講期 2022年度春 ²	学期曜日・	時限 集中講義
	2. 飢餓をゼロに/3. すべての人に健康と福祉を	:/4. 質の高い教育をみんなに	- -
SDGs関連項目	2 MME 3 TATOAL 4 MARINDRE ALCE		
3003风建烈日	<u> </u>		
	農作物はヒトの生命・生活活動に必要な栄養素に加	1えて、さまざまな生体調節機能	どをもった成分を含んでいる。生
	体調節機能成分は、ヒトの健康増進作用と関連して	おり、いわゆる機能性食品成分	分として注目されている。農作物
到達目標	に付加価値をつけるため、機能性表示が進められて		
	ラルの5栄養素のヒトへの基本的な生命維持機能を		れてきているさまざまな生体調節
	機能成分のヒトの健康増進機能を理解することを目		
	食品成分のもつ機能は、一次機能、二次機能、三次		
155 AHF 1011 TE	ルは栄養素として一次機能を有している。二次機能		
授業概要	生体調節機能で、食物繊維、ポリフェノール、乳酸		
	成分がもつ機能を説明し、それぞれの機能が発現さ		
→ h = . → = . →	実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、食品機	ままれて 大食科学寺が美践的にな	ミエフ投業を実施する。
アクティブラーニング	ディスカッション/プレゼンテーション		
内容	各担当教員による授業の後、レポート提出、授業内		, た/こう
評価方法と割合	登担		
	総合評価する。	の生所反、レハードの間焼奶咖	
 ルーブリック評価	170 L L I IIII 7 0 0		
課題や試験のフィード			
バック方法	課題や試験の返却時に必要に応じて適宜フィードバ	「ックを行う。	
履修条件・注意事項	授業に出席し、レポート作成、プレゼンテーション		
事前学習・事後学習と	7 Wall 1 1 W # 11 W A D 11 W A	- forsit + /左羽 L l - / - l	
の時間	学部時代に習得した栄養化学、食品化学、生物学の	知識を復省しておくこと。	
オフィスアワー	担当教員と事前に相談して取り決めた時間・場所に	て設ける。	
	授業計画		担当者
各担当者が以下の内容	を講述する。		土井 裕司
第1回 食品の機能			林 将也
第2回 タンパク質の機	幾能		
第3回 糖質の機能			
第4回 脂質の機能	at-		
第5回 ビタミンの機能 第6回 ミネラルの機能			
第7回 呈味物質の機能			
第8回 アミノ酸・ペラ			
第9回 食物繊維・オリ			
第10回 免疫系に作用			
	·ィクスとプレバイオティクス		
第12回 ミネラルの吸			
第13回 血糖值上昇抑	制成分		
第14回 血圧上昇抑制	成分		
第15回 活性酸素と老	ile		
教科書			
教・書籍名1 三訂 食	食品機能学	教・出版	反社名1 光生館
教・著者名1 寺尾純二	こ・山西倫太郎・高村仁知 共著	教・13	SBN1 978-4-332-04059-0
+1 + +		*/- 11.II	T+1 40
教・書籍名2		教・出版	双往名2

参考書						
参・書籍名1	三訂 食品機能学	参・出版社名1	光生館			
参・著者名1	寺尾純二・山西倫太郎・高村仁知	参・ISBN1	9784332040590			
参・書籍名2	わかりやすい食品機能学 第2版	参・出版社名2	三共出版			
参・著者名2	森田英利・田辺創一 編著	参・ISBN2	978-4-7827-0770-8			

	機能性分析学特論			担当者		福田	惠温、土井	井 裕司
	2017~ 2018年度 吉	備国際大学 大学院 地域倉	創成農研究					
配当学科・研究科	科 地域創2年/ 2018	創2年/ 2018~ 2022年度 吉備国際大学 大学院		ナンバリング				
	地域創成農研究科 地	域博2年						
必修・選択	選択	単位数 2単位		時間数	30時間		授業形態	態講義、演習
年次	2年	開講期 20	22年度春学期	·····································		曜日	・時限集	中講義
	2. 飢餓をゼロ	に/3.すべての人に健康	康と福祉を/	4. 質の高い	教育を	みんな	に/9.産	三業と技術革新の基盤を
	つくろう/12.	つくる責任・つかう責任	£					
SDGs関連項目	2 新羅を 3 すべての人に	4 質の臭い放音を みんなに 9 産業と技術を新の る母をつくろう 12 つくる異性 つかり責任						
		n at						
	農作物はたくさん	 んの化合物(成分)を含ん	んでおり、そ	れらはヒトの	生命・	生活活	動の増進に	 :働くもの、毒性を示す
到達目標	などさまざまで	ある。本講義では、農作物	から目的物	質を選択的に	抽出し	、同定	する方法を	·講述する。目的物質を
	どのように選択し	的に抽出する検出・分析で	する技術の原	理を習得する	ことを	目標と	する。	
		る抽出・分析技術は多種3	-					
		素である。次いで、有機化	-					
授業概要		経験を持つ教員が、その終					-	
	る。							
アクティブラーニン	グの							
内容	PBL/ディスカ	ッション/プレゼンテーシ	ンョン/実習					
	講義内容をまと		もらい、その	内容でもって	評価す	る。		
評価方法と割合	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			. , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				
ルーブリック評価								
課題や試験のフィー	ド 課題. レポート		誰をさらに深	めるための資	科提供	. 種々	テーマに関	まする総合討論を実施す
バック方法	3.		,,,, C C 7 m	, 0, 0, 1, 1,	CT TIME IV	. 1	, .,-,-,-	
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,								
	化学実験の定量を		ること。また	、授業内容の	資料は	毎回配	布するのて	
履修条件・注意事項		分析を十分に理解している	ること。また	、授業内容の	資料は	毎回配	布するのて	ご、ファイルを用意する
	こと。	分析を十分に理解している て授業終了前に示した内容					•	
	こと。 とそ 小論文課題とし [*]		容は、その講	義の要点であ	るので	、その	内容に関す	
事前学習・事後学習の時間	こと。 とそ 小論文課題とし [*] 習する。そして、	て授業終了前に示した内容	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。	
事前学習・事後学習	こと。 とそ 小論文課題とし [*] 習する。そして、	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。	
事前学習・事後学習の時間	こと。 とそ 小論文課題とし [*] 習する。そして、	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。	
事前学習・事後学習の時間	こと。 とそ 小論文課題とし [*] 習する。そして、	て授業終了前に示した内容、 疑問点があれば、次回のスプローを設定する。(曜	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。	⁻ る科学情報を集めて復
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー	こと。 とそ 小論文課題とし 習する。そして、 週に1回オフィス	て授業終了前に示した内容、 疑問点があれば、次回のスプローを設定する。(曜	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関す る。 土:	- る科学情報を集めて復 担当者
事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法	こと。 とそ 小論文課題とし 習する。そして、 週に1回オフィス	て授業終了前に示した内容、 疑問点があれば、次回のスプローを設定する。(曜	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。 土: 土:	- る科学情報を集めて復 担当者 井裕司
事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法 第2回 有機化学の基	こと。 とそ 小論文課題として、 習する。そして、 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2	て授業終了前に示した内容、 疑問点があれば、次回のスプローを設定する。(曜	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。 土: 土: 土:	- る科学情報を集めて復 担当者 井裕司 井裕司
事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法 第2回 有機化学の基 第3回 有機化学の基	こと。 とそ 小論文課題として、 習する。そして、 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2	て授業終了前に示した内容、 疑問点があれば、次回のスプローを設定する。(曜	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。 土: 土: 土: 土:	- る科学情報を集めて復 担当者 井裕司 井裕司 井裕司
事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法 第2回 有機化学の基 第3回 有機化学の基 第4回 物質の抽出法	こと。 とそ 小論文課題として、 習する。そして、 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2	て授業終了前に示した内容、 疑問点があれば、次回のスプローを設定する。(曜	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。 土: 土: 土: 土:	- る科学情報を集めて復 担当者 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法第2回 有機化学の基第4回 物質の抽出法第5回 酵素反応第6回 細胞培養	こと。 とそ 小論文課題として、 習する。そして、 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の 、アワーを設定する。(曜 授業計画	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。 土: 土: 土: 土: 土:	- る科学情報を集めて復 担当者 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法第2回 有機化学の基第4回 物質の抽出法第5回 酵素反応第6回 細胞培養	こと。 とそ 小論文課題として、 習する。そして、 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2 素	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の 、アワーを設定する。(曜 授業計画	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。 土: 土: 土: 土: 土: 土:	- る科学情報を集めて復 担当者 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法 第2回 有機化学の基 第3回 有機化学の基 第4回 物質の抽出法 第5回 酵素反応 第6回 細胞培養 第7回 物質の分離・	こと。 とそ 小論文課題として、習する。そして、週に1回オフィス 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2 素 精製法 1 クロマト 精製法 2 TLC	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の 、アワーを設定する。(曜 授業計画	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。 土: 土: 土: 土: 土: 祖: 福	- る科学情報を集めて復 担当者 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 田恵温
事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法 第2回 有機化学の基 第3回 有機化学の基 第4回 物質の抽出 第5回 酵素反応 第6回 細胞培養 第7回 物質の分離・ 第8回 物質の分離・	こと。 とそ 小論文課題として 習する。そして、 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2 素 精製法 1 クロマト 精製法 2 TLC 精製法 3 HPLC	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の 、アワーを設定する。(曜 授業計画	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。 土: 土土土土土 社 土土 社 福 福 福 福 福 福 福 福	- る科学情報を集めて復 担当者 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 田恵温 田恵温
事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法 第2回 有機化学の基 第3回 特質の抽出法 第5回 酵素反応 第6回 細胞質の分離・ 第6回 物質の分離・ 第9回 物質の分離・	こと。 とそ 小論文課題として 習する。そして、 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2 精製法 1 クロマト 精製法 2 TLC 精製法 3 HPLC ・析法の原理	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の 、アワーを設定する。(曜 授業計画	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。 土土土土 土土 福福福福福福福福	- る科学情報を集めて復 担当者 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 井部司 田恵温 田恵温
事前学習・事後学習 の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法 第2回 有機化学の基 第3回 有機化学の基 第4回 物質の抽出法 第5回 酵素反応 第6回 細胞質の分離・ 第8回 物質の分離・ 第9回 物質の分離・ 第10回 質量(MS)分	こと。 とそ 小論文課題として 習する。そして、 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2 精製法 1 クロマト 精製法 2 TLC 精製法 3 HPLC ・析法の原理	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の 、アワーを設定する。(曜 授業計画	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。	- る科学情報を集めて復 担当者 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 井裕司 田恵 田恵 田恵 田恵 田恵 田恵 田恵 田田 田恵 田田 田恵 田田
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法第2回 有機化学の事第3回 有機化学の事第4回 物質の抽出 第5回 酵素反応第6回 細胞培養第7回 物質の分離・第9回 物質の分離・第9回 物質の分離・第10回 質量(MS)分第11回 MSスペクト	こと。 とそ 小論文課題として、習する。そして、週に1回オフィス 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2 素製法 2 TLC 精製法 3 HPLC 析法の原理	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の 、アワーを設定する。(曜 授業計画	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。	- る科学情報を集めて復 担当者 井裕司 井裕司司 井裕裕司司司司司司司司司司司司司司司司司司司司司司司司司司
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法第2回 有機化学の基第3回 有機化学の基第4回 物質の抽出法第5回 離胞 短点 類質の分離・第6回 物質の分離・第9回 物質の分離・第10回 質量(MS)分第11回 MSスペクト第12回 LC/MS	こと。 とそ 小論文課題として、習する。そして、週に1回オフィス 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2 素製法 2 TLC 精製法 3 HPLC 析法の原理	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の 、アワーを設定する。(曜 授業計画	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。 土土土土土福福福土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土	- る科学情報を集めて復 担当者 井裕裕司司司司司司司司司司司司副温温 担惠温温司司副温温司司 井裕祠司司司司司司司司
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法第2回 有機化学の事第3回 有機化学の事業反応第6回 を	こと。 とそ 小論文課題として、習する。そして、週に1回オフィス 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2 精製法 2 TLC 精製法 3 HPLC 析法の原理 ルの解析	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の 、アワーを設定する。(曜 授業計画	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。	- る科学情報を集めて復 担当者 井
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法第2回 有機化学の事第3回 有機化学の事業4回 物質の反応第6回 細胞質の分離 部類の分離 第9回 物質の分離 第9回 物質の分離 第11回 MSスペクト第11回 MSスペクト第12回 LC/MS第13回 GC/MS第14回 元素分析	こと。 とそ 小論文課題として、習する。そして、週に1回オフィス 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2 精製法 2 TLC 精製法 3 HPLC 析法の原理 ルの解析	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の 、アワーを設定する。(曜 授業計画	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	うるので 'ワーに	、その 質問す	内容に関する。	一る科学情報を集めて復生
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法第2回 有機化学のより第3回 財素を持続を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	こと。 とそ 小論文課題として、習する。そして、週に1回オフィス 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2 精製法 2 TLC 精製法 3 HPLC 析法の原理 ルの解析	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の 、アワーを設定する。(曜 授業計画	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	かるので、ワーにに掲示す	、その質問すける。)	内容に関する。	一る科学情報を集めて復生
事前学習・事後学習の時間 オフィスアワー 第1回 文献検索法第2回 有機化学のあまる。第4回 物質を反応第6回 細胞質のの分離の分分離を第9回 物質のの分離を第9回 物質量(MS)分第11回 MSスペクト第12回 LC/MS第13回 GC/MS第14回 元素分析のま数科書	こと。 とそ 小論文課題として、習する。そして、週に1回オフィス 週に1回オフィス 基礎 1 基礎 2 素 精製法 2 TLC 精製法 3 HPLC 析法の原理 ルの解析 とめ	て授業終了前に示した内容 、疑問点があれば、次回の 、アワーを設定する。(曜 授業計画	容は、その講 の講義あるい	義の要点で <i>あ</i> はオフィスア	かるので、ワーにに掲示す	、 その 質問す ける。)	内容に関する。 土土土土土福福福福土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土	- る科学情報を集めて復担当者 - 井井 井井 田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田

教・著者名2	教・ISBN2	
参考書		
参・書籍名1	参・出版社名1	
参・著者名1	参· I S B N 1	
参・書籍名2	参·出版社名2	
参・著者名2	参·ISBN2	

授業科目名	食品機能開発化学演	習 2022年度生			担当者	<u>,</u>	金沢	功、福田	温
	2017~2018年度吉	備国際大学 大	学院 地	地域創成農研究					
配当学科・研究科	科 地域創1年/ 2018	3~ 2022年度 清	吉備国際	祭大学 大学院	ナンバリ	ング			
	地域創成農研究科 地	域博1年							
必修・選択	選択	単位数	8単位		時間数	120		授業形態	演習
年次	1年	開	講期	2022年度春学	 期		曜日	・時限 集中	講義
	2. 飢餓をゼロ(に/3. すべて	ての人に	- - 健康と福祉を/	/4. 質の高い	い教育を	みんな	に/7. エネ	ルギーをみんなに・
	そしてクリーン(こ/9. 産業と	∠技術革	革新の基盤をつぐ	くろう/12.	つくる	責任・	つかう責任/	14. 海の豊かさを
	守ろう/15.	陸の豊かさもや	うろう						
SDGs関連項目	O SME	A 質の高い教育を フェネル	f-take 0	意葉と物語言語の 10 つくる責任	14 Bonnes 15 Bonn	.86			
	2 新報を せつに 3 前来と報社を	15.41	11	## 12 つぐる責任 事性をつくろう 12 つかう責任	14 #080° 15 #080° #050°	÷			
	-W*		φ <u>-</u>			=			
	豊作物に今まれ	ス植物=次代語	計物/+レ	・ト健康増准機能	************************************	5 学術却	生が多	くある 木油	習では、学生たち自
									した学術報告を選び
									を対象にプレゼン
到達目標									うにして、情報選択
									る能力を身につける
	ことを目標とする		< \ 1□ 1ÿ		- 王・・ ひ た 政日	ᆸᄱᅒᅜᅜ	~/J -/ H	/// III C /工/开り	C 11073 C 2 17 0
			るペプチ	- ドは食欲増准/	ウ抗うつ作用 <i>を</i>	キ示すと	いう研	究, また 休	
	ミン類が遺伝子の								11/2/2007/07/03/97
									i送担体の機能調整に
									による疾患予防など
	の学術報告を検					10723	70] [9]	, hexiowia	
					レスベラトロ	コールカ	・ナノモ	ルレベルの濃	度で脳神経系に作用
									る。キサントフィル
									印制、抗炎症などの機
授業概要	能性を示すとい					, , ,		ינייווטמ אנטוני	THIN DIDOLE IS C 19 193
	食物繊維が消化	育 ト皮細胞のう	デグトン	などの受容体を	マイン。 そ介して体内+	ナイトカ	1イン分	泌を調節する	ことで免疫応答系を
									し、読解して、発表
	する。	. 3 1/3 ()	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			113 114 - 124	1 () 55/1 () () ()
		の中から集約し	て信頼	頁できるデータを	を選別し、ま <i>†</i>	た、ヒト	での有	効性に焦点を	絞って論じているメ
	タアナリシスの	学術を探し出し	ン、シ <i>ブ</i>	、 ステマティック l	ノビューとして	てまとめ	る。		
	*実務経験のある	る教員による控	受業科目						
	実験で取り上げ	る食品関連の研	肝究は、	金沢、福田は1	企業において、	日常的	に実施	していた項目	であり、十分な実績
	を有している。								
アクティブラーニンク	ブの								
内容	PBL/ディスカ	ッション/プレ	<i>、</i> ゼンテ	ーション/実習	3				
	演習では課題を	定めて発表を行	テうが、	その準備のたる	かに学術報告を	を精査す	-る。そ	こで、多くの	学術報告の中から信
評価方法と割合									、質疑応答での疑問
	点抽出能力(2							·	
ルーブリック評価									
課題や試験のフィート	** ** ***	エーコミナ に			亚/エレ マがくり	小ウナ ク	- 5		
バック方法	講義、演習の都原	受、課題を与え	こ る。 レ	vホート内容をi	+価して総合キ	可正を行	「つ。		
<i>园版为</i>	栄養化学、食品	化学、生物学、	化学σ)知識を必須する	る。授業前に認	果題の案	ミとして	、学術報告の	コピーを複数配布す
履修条件・注意事項	るので、ファイル	ルを準備するこ	こと。						
事前学習・事後学習と	こそ 毎回の授業終了	時に次回演習の	り課題を	と示す。その課題	題に関する学術	肘を収集	して熟	読することで	課題発表の準備を行
の時間	う。また、課題	発表終了時に、	発表内	n容で不明であっ	った点、疑問点	点などを	示す。	これらの回答	を、再度、学術論文
	を詳読すること	で復習する。さ	さらに、	疑問点が残れり	ば、次回の講義	らあるし しょうしょ しょうしょ しょうしょ しょうしょ しょうしょ しょうしょ しょうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅうしゃ しゃり しゅうしゃ しゃり しゅうしゃ しゃり しゃり しゃり しゅうしゃ しゅうしゃ しゅうしゃ しゃり しゃく	はオフ	ィスアワーで	質問する。
+7,770	各回の授業時に	時間を取って教	 負が対	対応する。					
オフィスアワー	-	授業	計画						担当者
カフィスアワー -									
オフィスアワー (春学期)								金沢	功
	集法							金沢福田県	
(春学期)									惠温

第5~7回 植物フェニルプロパノイドの三次機能に関する課題発表	袑	国田惠温
第8~9回 植物フェニルプロパノイドの機能性の疑問点抽出とその回答を示唆する学術論文の調査	礼	a 田惠温
第10~15回 植物フラボノイドについて課題発表、疑問点抽出、解答調査		
(秋学期)	2	全沢 功
第1~2回 植物アントラキノンについて課題発表、疑問点抽出、解答調査	2	全沢 功
第3~8回 植物キサントフィルについて課題発表、疑問点抽出、解答調査	2	全沢 功
第9~12回 植物アルカロイドについて課題発表、疑問点抽出、解答調査		全沢 功
第13~15回 ヒト消化器官内で成長するペプチドの三次機能に関する課題発表と疑問点抽出及び回答	答の調査	
教科書		
教·書籍名1 特になし	教・出版社名1	
教・著者名1	教・ISBN1	
	3X TODITE	
教・書籍名2	教・出版社名2	
	** .	
	教・出版社名2	
教・著者名2 参考書	教・出版社名2	
教・著者名2 参考書 参・書籍名1 「農芸化学の事典」、「食品大百科事典」	教・出版社名2 教・ISBN2	朝倉書店
教・著者名2 参考書 参・書籍名1 「農芸化学の事典」、「食品大百科事典」 参・著者名1	教・出版社名2 教・ISBN2 参・出版社名1	朝倉書店

授業科目名	食品機能開発	後化学専	攻実験 2022年	度生		担当	者	金沢	功、土井	‡ 裕	司
	2017~ 201	8年度 吉	備国際大学 大	学院	地域創成農研究						
配当学科・研究科	科 地域創1年	2018	3~ 2022年度 7	吉備国	国際大学 大学院	ナンバリ	ング				
	地域創成農研	肝究科 地	域博1年								
必修・選択	選択		単位数	8単位	位	時間数	240		授業	形態	実験・実習
年次	1年		開	講期	2022年度春等	4期		曜日	・時限	集中講	義
	2. 飢餓	えをゼロ!	に/3. すべて	この人	、に健康と福祉を	/9. 産業と	技術革業	斤の基盤	盤をつくろ	うう	
SDGs関連項目	2 mme (((3 fべての人に	9 ##24####								
到達目標		テーマ									ることを明らかにす と学専攻実験]の到達
授業概要	に、その につけた 地域特産 まれるフ また、シ し、TLC	の機能性/ 分析技行 の農作 ^り フラボノ・ マラボノ・ マティー に供して	対分を文献情報 対を活用して分 物の開発を試み イド類とテルク ン誘導体類など で構成糖を同定	一ながるとごごかれるからながられるという。	で収集する。文 る。また、その そして、それら ドについてはHI 流化合物をGC/	献検索で得ら 分析結果を踏 の成果を研究 PLCで分離容と MSで分析する 作物をより好	れた情幸 まえて、 報告とし ることい	服に基づ 機能性 なまと 3次元 同定す のに改	がいて、機 主成分を適 がる。た 会出器で角 る。食物 な。食物 なしまるた	総能性所 動量含み とえば 解析する 繊維に	股分析を行うと同時 成分をこれまでに身 な、かつ、美味しい ば、その農作物に含 ることで同定する。 ついても加水分解 「法としては、栽培時
アクティブラーニン 内容	グの ディスカ	」ッショ	ン/実習								
評価方法と割合					 i果、まとめ、考 かの適切さ(20%)				提出物の)内容 <i>f</i>	いら、理解度(30%)、
ルーブリック評価	113/2(20,0,0	277072 (2070)		2 1/2/3 € (20/0)	C 137C O (1/10	ш н т јш и				
課題や試験のフィー バック方法	ドレポート	ヘコメ	ントをつけての)返却	〕。疑問等はオフ	ィスアワーに	討議。				
777312	化学実験	検技術を ⁻	 十分に習得して	こいる	 こと。実験の手	法と手順を概	説したこ	プリント	・を配布す	-るので	 ご、ファイルを用意
履修条件・注意事項		直に示し:	た内容について 等を行う。	5、半	#期ごとに実験技	術および知識	等の習得	尋状況を	を確認して	こいくさ	こと。それが十分で
事前学習・事後学習 の時間	とそ行った実	₹験結果	をその都度整理	Įl,	レポートを作成	すること。					
オフィスアワー	担当者と	:相談し	てオフィスアワ	フーを	:設定する。						
			授業	計画							担当者
1年次											
第1~5回 食品成分	の一般分析で	、精度高	高い定量技術を	習得							
第6~10回 逆相HP	LC分析でフラ	ボノイ	ド類の同定と定	量							
第11~15回 順相HI	PLC分析でテ	ルペノイ	ドの同定と定:	量							
第16~20回 システ	イン誘導体の	GC/MS	分析								
第21~23回 食物繊											
第24~28回 テクス		一での負	食品の粘弾性測	定						土井裕	司、金沢 功
第29~30回 まとめ										-/· IH	
2年次	_, ,,										
第1~2回 糖質含量											
第3~6回 栽培中の				測定	と適時サンプリン	ング					
第7回 サンプルの糊		を抽出	しての足量								
第8~29回 第3~7回			+6-777								
第30回 糖質含量改	善栽培の分析	と結果の)整理とまとめ								
教科書											
教・書籍名1								教・占	出版社名 1	L	
教・著者名1									ISBN 1		
教・書籍名2								教・と	出版社名2		

教・著者名2	教・ISBN2	
参考書		
参・書籍名1	参・出版社名1	
参・著者名1	参· I S B N 1	
参・書籍名2	参·出版社名2	
参・著者名2	参·ISBN2	

授業科目名	農業経済学特論		担当者	濱島 敦博	
	2017~ 2018年度 吉伯	扁国際大学 大学院 地域創成農研究			
配当学科・研究科		~ 2022年度 吉備国際大学 大学院	ナンバリング		
	地域創成農研究科 地域	或博1年			
 必修・選択	選択	単位数 2単位	時間数 30	授業	形態 講義
年次	1年	開講期 2022年度春学	- 期	曜日・時限	集中講義
	2. 飢餓をゼロに	二/8.働きがいも経済成長も/9.	産業と技術革新の	基盤をつくろう	
SDGs関連項目	2 total 8 magnet	9 RECORD			
到達目標		除に立脚した農業経済や食料経済に│ こなることを到達目標とする。	関する基礎知識を習	得し、日本農業の	D特性、課題を経済学的に
授業概要	て位置づけられる	成農学研究科において、経済的側 5。そのため、人口、土地・労働、 トピックスについて、経済学的解	流通・市場、集落構	造、フードシスラ	
アクティブラーニン: 内容	 ディスカッション	//ディベート/プレゼンテーショ	ン		
評価方法と割合	定期試験またはレ	·ポートによって評価する。			
ルーブリック評価					
課題や試験のフィー バック方法	発表時に講評を行	ī).			
履修条件・注意事項					
事前学習・事後学習 の時間	とそ予復習として、請	精義が始まる前に前回のレジュメ資 ^を	料に目を通しておく	こと。	
オフィスアワー	水曜日3限				
		授業計画			担当者
教科書					
教・書籍名1				教・出版社名	1
教・著者名1				教・ISBN	
教・書籍名2				教・出版社名2	
教・著者名2				教・ISBN2	2
参考書					
	経済学』 荏開津典生			参・出版社名	
参・著者名1				参・ISBN	
参・書籍名2				参・出版社名2	
参・著者名2				参・ISBN2	2-

授業科目名	開発経済学特論	L L	担当者	濱島	敦博	
	2017~ 2018年	度 吉備国際大学 大学院 地域創成農研究				
配当学科・研究科	科 地域創2年/	2018~2022年度 吉備国際大学 大学院	ナンバリング			
	地域創成農研究	2科 地域博2年				
必修・選択	選択	単位数 2単位	時間数 30		授業形	態講義
年次	2年	開講期 2022年度春	- 学期	曜日	・時限集	中講義
	2. 飢餓を	ゼロに/8.働きがいも経済成長も/9	. 産業と技術革新の	基盤をつ	くろう	
SDGs関連項目	2 **** (((9 11415000				
	経済発展論	は、経済学のツールを用いて、開発途上	国の経済発展のメカ	ニズム・	経路・手法	去を分析する学問領域で
到達目標	ある。開発	経済学の基礎理論を理解した上で、個々	の国・地域の経済発	展の経路	における	多様性の存在を理解する
		て到達目標とする。				
授業概要		、東・東南アジアを中心とした国・地域	この事例を紹介しなが	ら、開発	経済学の-	一般理論を教授する。
アクティブラーニ 内容	ングのディスカッ	ション/ディベート/プレゼンテーショ	ン			
評価方法と割合	試験(100	%)にて評価を行う。				
ルーブリック評価						
課題や試験のフィ バック方法	一ド 試験後に振	り返りを行う。				
履修条件・注意事	項					
事前学習・事後学の時間	習とそ					
オフィスアワー	水曜日3個	Į.				
		授業計画				担当者
教科書						
教・書籍名1				教・出	版社名1	
教・著者名1					SBN1	
教・書籍名2				** .	版社名2	
教・著者名2					SBN2	
参考書						
		介		参・出	版社名1	岩波書店
参・著者名1				参・	SBN1	
参・書籍名2				参・出	版社名2	
参・著者名2				参・	SBN2	

記当学科・研究科 担地的14年/2018~2022年度 吉伽国際大学大学院 サンバリング 根地的14年/2018~2022年度 吉伽国際大学大学院 サンバリング 根地的14年/2018~2022年度 吉伽国際大学大学院 サンバリング 根地的14年/2018~2022年度 吉伽国際大学大学院 サンバリング 根地的14年/2018~2022年度 吉伽国際大学大学院 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東	授業科目名	農業経済学研究演習	 I 2022年度生		担当者		濱島	敦博	
日本学科・研究科	3/1/11/11			地域創成農研究	J F		,六四	3/1/3	
地域別成長研究料 地域別以 本学	配当学科・研究科				ナンバリ゛	ノゲ			
本作次 1年 1年 1年 1年 1月 1月 1月 1月					,,,,,,				
1年				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	時間数	120		授業形	能 演習
2. 飢餓をゼロに/8. 働きかいも経済成長も/9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 2					* 1 - 1 - 1	120	曜日		
日本語画	177					新の基			() 41330
対問題に関する各種文献の誹謗を中心に、現在、農業経済学及び開発経済学に分野において議論されている内容学び、修士論文を作成するために必要な方法論を取得する。2年間の演習を通じて、社会科学領域の学術的研究して多争的な方法を扱うことができるようになることを目指す。また、文書作成能力やプレゼンテーションスキなど、大学院修了後に求められる、実践的能力を身につける。 1年次には、本演習は、演習参加者による、各種文献(テキストや先行研究・報告書等)の輪読形式で進め、修文のテーマの設定や、統計解析(計量経済)及び現地調査(アンケート調査、エスノグラフィー調査)、史資料法など、修士論文の作成に必要な方法を身につける。2年次には、各自の研究の進捗状況に応じた研究内容の発中心に進める。 アクティブラーニングの内容 ディスカッション/ディベート/ブレゼンテーション 評価方法と割合 研究内容の発表(50%)、課題提出(50%)により評価。 ルーブリック評価 課題や試験のフィード 発表やレポートの返却によって行う。 履修条件・注意事項 特になし 事前学習・事後学習とそ の該当箇所をを読むこと。テキストは塾者の学習程度に応じて適宜支持する。 オフィスアワー 授業計画 海島 海島 海島 海島 海島 本書名1 トダロとスミスの開発経済学(第10版)数・書籍名1 マイケル・P・トダロ(ピアソン桐原)数・158N1数・書籍名2数・書籍名1 参・出版社名1 参・出版社名1 参・書籍名1 参・出版社名1 参・書籍名1 参・出版社名1 参・当版社名1 参・書籍名1 参・出版社名2 参・書籍名1 参・出版社名2	i D G s 関連項目	2 和服を 8 物をがいる g max no g	9 常理と特殊事務の 事態をつくろう		江水 ()入时,		AIII. C P		
交換機要	達目標	村問題に関する学び、修士論文: ける多角的な方法	各種文献の購読を中 を作成するために必 去を扱うことができ	心に、現在、農 要な方法論を取るようになるこ	業経済学及び開 导する。2年間 とを目指す。ま	開発経済 の演習	学に分 を通じて	野において、社会科	て議論されている内容を 4学領域の学術的研究に4
内容	3業概要	文のテーマの設施 読など、修士論	定や、統計解析(計	量経済)及び現場	地調査(アンク	ト調	査、エ	スノグラ	フィー調査)、史資料判
内容 研究内容の発表(5 0 %)、課題提出(5 0 %)により評価。 ルーブリック評価 課題や試験のフィード	<i>"</i> クティブラーニン <i>"</i>	がの ニュー・	/ = " " / = "	21 185 - 5					
ルーブリック評価 課題や試験のフィード バック方法 発表やレポートの返却によって行う。 履修条件・注意事項 特になし 特になし オフィスアワー	容	アイ人刀ツンヨ	シ/ ティベート/ ノ	レセンテーショ	2				
課題や試験のフィード バック方法 履修条件・注意事項 特になし 事前学習・事後学習とそ の時間	呼価方法と割合	研究内容の発表	(50%)、課題提	出 (50%) に	より評価。				
	vーブリック評価								
事前学習・事後学習とそ の時間		ド 発表やレポート(の返却によって行う	0					
の時間 の該当箇所をを読むこと。テキストは塾者の学習程度に応じて適宜支持する。 オフィスアワー 水曜日 3 限 教科書 教・書籍名1 トダロとスミスの開発経済学 (第10版) 教・出版社名1 国際協力出版社教・著者名1 マイケル・P・トダロ (ピアソン桐原) 教・I S B N 1 教・書籍名2 教・出版社名2 教・書籍名1 参・出版社名1 参・書籍名1 参・出版社名1 参・書籍名2 参・出版社名1 参・書籍名2 参・出版社名1 参・書籍名2 参・出版社名2 参・出版社名2 参・出版社名1 参・書籍名2 参・出版社名2		特になし							
大型	前学習・事後学習の	とそ ミクロ経済学及	びマクロ経済学のテ	キスト初学者に	ついては、演習	の前後	に予習	・復習と	して、然るべきテキスト
投業計画 担当者 演島 対科書 教科書 下ダロとスミスの開発経済学(第10版) 教・出版社名1 国際協力出版社 教・著名2 教・出版社名2 教・出版社名2 教・著名2 教・書籍名1 教・出版社名2 教・書籍名2 教・出版社名2 教・出版社名2 教・書籍名2 教・出版社名2 教・出版社名2 教・書籍名2 教・出版社名2 教・書籍名2 教・出版社名1 参・書籍名1 参・出版社名1 参・出版社名1 参・書籍名2 参・出版社名2)時間	の該当箇所をを	売むこと。テキスト	は塾者の学習程具	度に応じて適宜	₹支持す	る。		
演習	- フィスアワー	水曜日3限							
演習			授業計画						担当者
教・書籍名1トダロとスミスの開発経済学 (第10版)教・出版社名1国際協力出版社教・著者名1マイケル・P・トダロ (ピアソン桐原)教・出版社名2教・著者名2教・ISBN2参考書参・出版社名1参・書籍名1参・出版社名1参・著者名1参・ISBN1参・書籍名2参・出版社名2	習							潭	
教・書籍名1トダロとスミスの開発経済学 (第10版)教・出版社名1国際協力出版社教・著者名1マイケル・P・トダロ (ピアソン桐原)教・出版社名2教・著者名2教・ISBN2参考書参・出版社名1参・書籍名1参・出版社名1参・著者名1参・ISBN1参・書籍名2参・出版社名2	(科書								
教・著者名1 マイケル・P・トダロ (ピアソン桐原) 教・I S B N 1 教・書籍名2 教・I S B N 2 参考書 参・書籍名1 参・出版社名1 参・著者名1 参・I S B N 1 参・書籍名2 参・I S B N 1 参・書籍名2 参・出版社名2		とスミスの開発経済	学(第10版)				教・出	版社名1	国際協力出版社
教・著者名2教・ISBN2参考書参・書籍名1参・出版社名1参・著者名1参・ISBN1参・書籍名2参・出版社名2	文・著者名1 マイケ	ル・P・トダロ(ピア	ソン桐原)						
参考書 参・書籍名1 参・出版社名1 参・著者名1 参・ISBN1 参・書籍名2 参・出版社名2	で・書籍名2						教・出	版社名2	
参・書籍名1 参・出版社名1 参・著者名1 参・ISBN1 参・書籍名2 参・出版社名2									
参・著者名1 参・ISBN1 参・書籍名2 参・出版社名2	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·								
参・書籍名 2 参・出版社名 2	・書籍名1						参・出	版社名1	
参・書籍名 2 参・出版社名 2	・著者名1						参・	SBN1	
	⇒・書籍名2								
参・著者名2 参・I S B N 2	・著者名2						参・	SBN2	

授業科目名	典学级这	学研究演習	2022年度	+		担当有	⊭	濱島	か 捕	
以本付口石					域創成農研究	1231	=	/只问	扒付	
配当学科・研究科					整线剧风展训先	ナンバリ	ンガ			
		1年/ 2010 農研究科 地域		口佣出的	永八十 八十帆	, , , , ,	//			
 必修・選択	選択	Z 8/17/01/11/10/9	単位数	8単位		時間数	120		授業刑	彩態 演習
年次 年次	1年			開講期	2022年度春学		1110	曜日	· 時限 7	
170		 飢餓をゼロに			経済成長も/9		革新の基			3 WE (120
SDGs関連項目	2 *************************************	8 巻きがいる 経済水長も	9 88248280							
到達目標	村問題 学び、 ける:	題に関する各 、修士論文を 多角的な方法	種文献の購 作成するた を扱うこと	読を中心 めに必要 ができる	いに、現在、農 要な方法論を取	業経済学及び 得する。2年間 とを目指す。	開発経済 間の演習	デに分 を通じて	野において、社会和	域を対象とした農業・農 て議論されている内容を 科学領域の学術的研究に プレゼンテーションスキル
授業概要	文の・読な	テーマの設定	や、統計解	析(計量	経済)及び現	地調査(アン	ケート調	査、エ	スノグラ	の輪読形式で進め、修士 フィー調査)、史資料料 こ応じた研究内容の発表
アクティブラーニン	グの		/-""	l /→°ı	·ゼンテーショ	`				
内容	71.	スカッンョ ン.	/ T 1 へー	ト/ ノレ	センナーショ					
評価方法と割合	研究	内容の発表(50%)、	課題提出	(50%) に	より評価。				
ルーブリック評価										
課題や試験のフィー バック方法	ド 発表	やレポート返	却による。							
履修条件・注意事項	特に	なし								
事前学習・事後学習	とそミク	ロ経済学及び	マクロ経済	学のテキ	スト初学者に	ついては、演	習の前後	に予習	・復習と	して、然るべきテキスト
の時間	の該	当箇所をを読	むこと。テ	キストは	は塾者の学習程	度に応じて適	宜支持す	-る。		
オフィスアワー	週にご	l回オフィスフ	アワーを設況	定する。	(曜日・時間に	は研究室のドラ	った掲示 [・]	する。)		
			授	業計画						担当者
演習									Ž	賓島
教科書										
教・書籍名1 トダロ	とスミスの	カ開発経済学	(第10版)					教・出	版社名1	国際協力出版社
教・著者名1 マイケ	ル・P・ト	· ダロ(ピア)	ノン桐原)					教・Ⅰ	SBN1	
教・書籍名2								教・出	版社名2	
教・著者名2								教・Ⅰ	SBN2	
参考書										
参・書籍名1								参・出	版社名1	
参・著者名1								参・	SBN1	
参・書籍名2								参・出	版社名2	
参・著者名2								参・	SBN2	

授業科目名	(研究指導) 2022年	度生		担当者		相野	公孝		
XXIII II	2017~2018年度 吉		地域創成農研究	7—— H		18-23	_ ,		
配当学科・研究科	科 地域創1年/2018			ナンバリン	ノグ				
10 1 1 1 1 1 1 1 1 1	地域創成農研究科 地		W)(1))(1) bc	,,,,,					
 必修・選択	必修	単位数 0単位		時間数	60		培業	形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学	* 1 1	00	曜口	· 時限	,,,,,,,,	I
十八	<u> </u>	- 一			まか ナ ナ		一时以	未下品	中我
SDGs関連項目	2 see 12 see (11)	15 Reference	1	13. 性の豆		1 13 72 7			
到達目標	植物病理学に関す	「る研究・実験に主体	本的に取り組み、	科学的な思考	が力を身	に着け	、卒業	論文を	完成させる。
授業概要	といった応用研究 農学演習」などの		且んでいく。研3 勺にサポートする	究を遂行する <i>の</i> る。また、卒業	に必要	さなる)作成に	知識や	支術の	必要な技術の開発」 修得を、「地域創生 単に機械的な作業を
アクティブラーニン: 内容	グの ディスカッション	· / プレゼンテーシ :	ョン						
評価方法と割合	卒業論文の作成・	提出 (50%) および	びその過程(509	%)で評価する	5.				
ルーブリック評価									
課題や試験のフィー バック方法	ド個々の学生とのう	ディスカッション							
履修条件・注意事項		こ選考分属した学生で で、必ず参加すること		卒業研究を開	始する	前に、	実験を	安全に	進めるためのレク
事前学習・事後学習の	とそ 卒業研究課題に関	関連する書籍や論文、	教員より受けた	た説明内容など	で1日	あたり	概ね1	時間程	度復習し、必要に応
の時間	じて予習も心がに	ける。							
オフィスアワー	個人研究室にて、	月曜~金曜の間、毎	毎日18時30分~2	19時30分に実施	施				
		授業計画							担当者
研究倫理説明									
	選定された研究課題を	遂行するために必要	な実験技術の指	導				相野・	・村上
教科書						≠ h , 1		1	
教・書籍名1							版社名		
教・著者名1							SBN		
教·書籍名2							版社名		
教・著者名2						教・	SBN	2	
参考書						45			
参・書籍名1							版社名		
参・著者名1						_	SBN		
参・書籍名2							版社名		
参・著者名2						参・	SBN	2	

	T						
授業科目名	(研究指導) 2022			担当者	森野	真理	
		吉備国際大学 大学院 地					
配当学科・研究科	科 地域創1年/ 201	.8~ 2022年度 吉備国際	除大学 大学院 ┃	ナンバリング			
	地域創成農研究科均	地域博1年				1	
必修・選択	選択	単位数 0単位		時間数 60			形態 演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	<u> </u>	曜日	・時限	集中講義
SDGs関連項目	1 5. 陸の豊か 15 ************************************	さも守ろう					
到達目標	修士課程で学ん	、だ専門分野の知識や技	₹術の集大成とし [*]	て、学位論文を作	作成するこ	とを到済	達目標とする。
授業概要	修士課程で学ん	,だ専門分野の知識や技	術の集大成とし.	て、学位論文を何	作成する		
アクティブラーニン: 内容	グの ディスカッショ	ン/プレゼンテーショ					
評価方法と割合	修士論文(100	%)					
ルーブリック評価							
課題や試験のフィー	F (PDI) 1	フナ 仁は					
バック方法	個別にアドバイ	人を行う。					
履修条件・注意事項	特になし。		-	-			-
事前学習・事後学習	とそ、ボウミエルツ				. + 1 11	1 + 1 > >	
の時間	研究計画に沿っ	って、目発的に研究を進	』め、指導教員と	コミュニケーン:	ョンをとり	なから、	、課題に取り組むこと。
オフィスアワー	(火) 12:30~	~13:30					
		授業計画					担当者
・オリエンテーショ	ン						
・修士論文計画の再稿	在認						
・データ収集・分析	方法の再検討						
・データの整理							森野
・分析結果							本本土」
・結果の妥当性の検討	Ī.						
・論文作成							
・研究発表							
教科書							
教・書籍名1 適宜資	料を配布。				教・出	出版社名	1
教・著者名1					教・Ⅰ	ISBN	1
教・書籍名2					教・出	出版社名	2
教・著者名2					教・Ⅰ	I S B N :	2
参考書							
参・書籍名1					参・出	出版社名	1
参・著者名1					参・	ISBN	1
参・書籍名2					参・出	出版社名:	2
多 目相 日 2						470711111	

授業科目名	(研究指導) 2022年		担当者	濱島 敦博	
201111111	, ,	·		37.13	
配当学科・研究科		3~ 2022年度 吉備国際大学 大学院	ナンバリング		
711 015011	地域創成農研究科 地				
 必修・選択	必修	単位数 0単位	時間数 60	授業	美形態 演習
年次	1年	開講期 2022年度春学	■■■■■ 型期	曜日・時限	集中講義
	2. 飢餓をゼロ(に/8.働きがいも経済成長も/9	. 産業と技術革新の基	盤をつくろう	
SDGs関連項目	2 新聞在 8 報告が いる 日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	身 高泉と対応事務の 高数をつくもう			
3 D G 3 因是杂日	" m				
到達目標	本研究科の専門	教育課程の集大成として修士論文を	作成することを目標と	:する。	
授業概要	演習で学んだス:	キル・知識を用いながら修士論文を	完成させる。		
アクティブラーニン	グのディスカッシュ		`/		
内容	フィスカッショ	////··			
評価方法と割合	提出論文 (90%)	および発表(10%)で評価する。			
ルーブリック評価					
課題や試験のフィー	ド 発表時に講評を	行う。			
バック方法	76 DC 117 117 C 1	3 7 0			
履修条件・注意事項					
事前学習・事後学習	とそ 関連文献を積極的	的に自ら読み込むこと。			
の時間					
オフィスアワー	水曜日3限				
		授業計画 			担当者
AL					濱島
A					
教科書				北 コロルロシリ <i>と</i> フ	1
教・書籍名1 教・著者名1				教・出版社名教・ISBN	
教・書籍名2				教・日気は私名	
教・著者名2				教・ISBN	
参考書				3A 1 3 D N	
参・書籍名1				参・出版社名	1
参・著者名1				参・ISBN	
参·書籍名2				参・出版社名	
参・著者名2				参・ISBN	12

授業科目名	(研究指導) 2022	2年度生		担当者	<u>′</u>	桧原 6	建一郎		
	2017~2018年度	吉備国際大学	大学院 地域創成農研究						
配当学科・研究科	科 地域創1年/ 20	18~ 2022年月	ま 吉備国際大学 大学院	ナンバリ	ング				
	地域創成農研究科	地域博1年							
必修・選択	必修	単位数	0単位	時間数	60		授業形態	演習	
年次	1年		開講期 2022年度春学	<u> </u>		曜日・	時限 集中	講義	
SDGs関連項目		以版画版の つくろう 13 気候変数に つくろう	、と技術革新の基盤をつ	くろう/13.	気候変	動に具体	・ 的な対策を		
達目標			重学に関連したテーマに こ、新たな発見を見出し				≷験・調査・	研究を行い	、大学で
受業概要	容については!	学生が主体とな 成果をまとめ、	R内容を担当教員と議論 なり、学術論文や書籍な それから考えられる考	どからこれまつ	での知見	や研究内	P容について	理解を深め	る。
アクティブラーニン 内容	グの ディスカッシ	ョン/プレゼン	/テーション/実習						
平価方法と割合	実験・調査・荷	研究に関する創	態度および研究成果の取	リまとめた修 <u>-</u>	上論文製	作、修士	-論文発表会	きをもって糸	合的に記
レーブリック評価									
果題や試験のフィー	ド演習後にディ	 スカッションフ							
ヾック方法	沢日区に11	··// / / = / ′	∸ 1.1 ∕ 0						
屢修条件・注意事項	演習以外の時	間も自主的に別	実験や学習を行うこと。						
自治学羽, 東悠兴羽	とそ 学術論文など	を用いて白分の	の研究内容について自主	的に学習する	レンもに	_ <u></u> 、研究だ	rら得られた	:結果に対す	る考察を
申別于日・尹仮子首	ع م. کراااا دایا د	C/IIV CIJIV		山に十日りるの		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			
			図には各2時間を必要とす			. ,,,,,			
)時間	行うこと。こ	れら予習、復習	習には各2時間を必要とす 寺45分~13時25分に実施	る。		. ,,,,,			
)時間	行うこと。こ	れら予習、復習 て、金曜日12日		る。		, ,,,,,		担当有	¥
)時間 トフィスアワー	行うこと。こ	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			桧原	担当着建一郎	¥
D時間 フィスアワー 【春学期】	行うこと。こ 個人研究室に	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。		. , ,,, , , ,	桧原		⊻ ∃
D時間 -フィスアワー 【春学期】 修士論文研究テー・ 研究計画	行うこと。こ 個人研究室に	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			桧原		<u> </u>
時間フィスアワー【春学期】修士論文研究テー・研究計画実験手法	行うこと。こ 個人研究室に	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			桧原		¥ ∃
D時間 フィスアワー 【春学期】 修士論文研究テー・ 研究計画 実験手法 .データの取得方法	行うこと。こ 個人研究室に	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			桧原		¥
D時間 フィスアワー 【春学期】 修士論文研究テー・ 研究計画 実験手法 .データの取得方法	行うこと。こ 個人研究室に	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			桧原 [〈]		¥ H
の時間 「フィスアワー 【春学期】 修士論文研究テー・ 研究計画 実験手法 .データの取得方法 .実験手順の確認 .実験準備	行うこと。こ 個人研究室に	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			桧原		ILK.
の時間 「フィスアワー 【春学期】 修士論文研究テー・ 研究計画 実験手法 .データの取得方法 .実験手順の確認 .実験準備	行うこと。こ 個人研究室に	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			桧原		T A
フィスアワー 【春学期】 修士論文研究テー研究計画 実験手法 データの取得方法 実験手順の確認 実験準備 実験・DNA抽出 実験・PCR	行うこと。こ 個人研究室に	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		E I
D時間 フィスアワー 【春学期】 修士論文研究テー研究計画 実験手法 データの取得方法 実験手順の確認 実験準備 実験-DNA抽出 実験-PCR 実験-電気泳動	行うこと。こ: 個人研究室に マの決定	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			桧原		
の時間 フィスアワー 「クィスアワー 「クィスアワー 「クリスティー」 「クリスティー」 「クリスティー」 「クリスティー」 「大会の取得方法 実験手順の確認 実験手順の確認 実験・DNA抽出 実験・PCR 実験・電気泳動 の、実験結果のまとめ	行うこと。こ: 個人研究室に マの決定	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			桧原		K-1
の時間 フィスアワー 【春学期】 修士論文研究テー・ 研究計画 実験手法 データの取得方法 実験手順の確認 実験・DNA抽出 実験・PCR 実験・電気泳動 0.実験結果のまとめ	行うこと。こ: 個人研究室に マの決定	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。					National Control of the Control of t
の時間 フィスアワー 【春学期】 修士論文研究テー・ 研究計画 実験手法 データの取得方法 実験手順の確認 実験準備 実験・DNA抽出 実験・PCR 実験・電気泳動 0.実験結果のまとめ 1.結果の分析	行うこと。こ: 個人研究室に マの決定	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			桧原		
の時間 フィスアワー 「クィスアワー 「クィスアワー 「クリステー」 「クリステー」 「クリステー」 「一タの取得方法 実験手順の確認 実験手順の確認 実験・DNA抽出 実験・PCR 実験・電気泳動 の、実験結果のまとめ 1. 結果の析 2. 統計解析	行うこと。こ 個人研究室に マの決定	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
の時間 プィスアワー 【春学期】 修士論文研究テー・ 研究計画 実験手法 データの取得方法 実験手順の確認 実験・DNA抽出 実験・PCR 実験・電気泳動 0.実験・電気泳動 0.実験に乗いまとめ 1.結果の分析 2.統計解析 3.研究成果に対する 4.中間発表	行うこと。こ 個人研究室に マの決定	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。					
か時間 ナフィスアワー 【春学期】 .修士論文研究テー・ .研究計画 .実験手法 .データの取得方法 .実験手順の確認 .実験・DNA抽出 .実験・PCR .実験・電気泳動 0.実験結果のまとめ 1.結果の分析 2.統計解析 3.研究成果に対する 4.中間発表	行うこと。こ 個人研究室に マの決定	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			桧原		ALL THE STATE OF T
D時間 プフィスアワー 「春学期」 「修士論文研究テー」 「佛究計画」 「実験手法」 「実験手順の確認」 「実験・DNA抽出」 「実験・PCR」 「実験・電無果のまとめ」 「実験・解析」 「お計解析」 「おいました」 「おいまた」 「おいました」 「おいまた」 「おいました」 「おいまた」 「お	行うこと。こ 個人研究室に マの決定	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			松原		
の時間 トフィスアワー 【春学期】 修士論文研究テー・ 研究計画 実験手法 、実験手の取の確認 実験等のので認 実験・DNA抽出 、実験・PCR 、実験・Bを表 の実験を表ののまとめ 1.結果計解析 3.研究成果に対する 4.中間学期に向けての 【秋学期】	行うこと。こ 個人研究室に マの決定	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
D時間 プフィスアワー 「春学期」 「修士論文研究テー」 「一個ででは、一個ででは、一個ででは、一個ででは、一個ででは、一個では、一個では、	行うこと。こ 個人研究室に マの決定	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
事制学者 か時間 オフィスアワー 【春学期】 修究期】 修究験 本 表 是 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 是 是 是 是 是	行うこと。こ 個人研究室に マの決定	れら予習、復習 て、金曜日12日	寺45分~13時25分に実施	る。					

4.実験-組織固定 5.実験-切片作成

7.実験データの収集 8.実験データの整理

6.実験-脱パラフィンと染色

9.実験結果のまとめ	
10.結果の分析	
11.統計解析	
12.研究成果に対する考察	
13.報告・発表準備	
14.研究内容の確認・修正	
15.修士論文発表会事前準備	
16.修士論文発表会	
教科書	
教・書籍名1	教・出版社名1
教・著者名1	教・I S B N 1
教・書籍名2	教・出版社名2
教・著者名2	教・ISBN2
参考書	·
参・書籍名1	参・出版社名1
参・著者名1	参・ISBN1

参・出版社名2

参・ISBN2

参・書籍名2

参・著者名2

授業科目名	(研究指導) 2022年		担当者	担当者 氷見 英子						
20011111	(1111 = 111 13)	二 備国際大学 大学院 地域創成農研究			, , , ,					
配当学科・研究科		~ 2022年度 吉備国際大学 大学院	ナンバリン	ノグ						
		域創成農研究科 地域博1年								
 必修・選択	必修	単位数 0単位	時間数	60	授業形態	演習				
年次	1年	開講期 2022年度春	******			中講義				
2. 飢餓をゼロに/13. 気候変動に具体的な対策を/15. 陸の豊かさも守ろう										
SDGs関連項目	2 #BE 13 #REEK: 15 #ORDER 15 POST									
到達目標	栽培及び育種学に関する研究・実験に主体的に取り組み、科学的な思考力を身に付け、修士論文を完成させる。									
	「植物形態に関わ	つる遺伝子の同定」といった基礎研	究から、「地域	農業生産現	場で必要な技	術の開発」といった応				
授業概要	用研究まで、幅点	なく取り組んでいく。研究を遂行す	るのに必要とな	る知識や技	術の修得とと	もに、生命現象そのも				
	のへの興味を高め	かる研究を行う。								
アクティブラーニング	グの ディスカッション/フィールドワーク									
内容	7 17 77 7 7 7									
評価方法と割合	修士論文の作成および発表能力により総合的に評価する。									
ルーブリック評価										
課題や試験のフィー バック方法	ドディスカッションを通じて随時フィードバックを行う。									
履修条件・注意事項	遺伝学、分子生物	n学、および育種学の知識を備えて	いること。							
事前学習・事後学習。 の時間	とそ修士論文研究課題									
オフィスアワー	事前にアポイント	 〜を取れば対応する。								
		授業計画				担当者				
担当教員による指導					氷見	1				
教科書										
教・書籍名1				教·	出版社名1					
教・著者名1	教・I S B N 1									
教・書籍名2	教・出版社名2									
教・著者名2	著者名2 教・ISBN2									
参考書										
参・書籍名1	参・出版社名1									
参・著者名1	参·ISBN1									
参・書籍名2	参・出版社名2									
参・著者名2	・著者名2 参・I S B N 2									

授業科目名	(研究指道) 2022年	研究指導) 2022年度生				担当者村上二朗			1		
大木 1 日 11	(1117 = 111 10)	初元指等) 2022年及王 017~ 2018年度 吉備国際大学 大学院 地域創成農研究				担当有 机工 一座		— <i>w</i> ı			
配当学科・研究科	科 地域創1年/2018		, .		ナンバリ	ング					
10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	地域創成農研究科 地			30(1) 2(1) 196		. ,					
 必修・選択	必修							授業形	能	演習・実験	
年次	1年	1 1	講期	2022年度春学	明問数 明	60	曜日		中講		
, , , ,	2. 飢餓をゼロ			こみんなに・そし	·てクリーン	に/13				· 対策を/14.海	
		の豊かさを守ろう/15. 陸の豊かさも守ろう									
SDGs関連項目	O 886 7 7346-6445										
,,	111 111	2 mm; 7 staff-mark: 13 manning: 14 months: 15 months: 1									
	**										
	植物病理学に関	する研究・実際	験に主体	上的に取り組み、	科学的な思	考力を身	に着け	、卒業論	文を完	成させる。	
	「植物に病気を	引き起こすメ	カニズム	∡の解明」といっ	た基礎研究	から、	地域農	業生産現	場で必	要な技術の開発」	
₩₩##	といった応用研	究まで、幅広・	く取り組	且んでいく。研究	兄を遂行する。	のに必要	となる	知識や技	術の修	得を、「地域創生	
授業概要	農学演習」など	の講義を通じて	て包括的	りにサポートする	。また、卒	業論文の	作成に	向けて、	ただ単	に機械的な作業を	
	繰り返すだけで	はなく、生命5	見象その	うものへの興味を	高める指導	を実践し	ていく	0			
アクティブラーニン	グのディスカッシュ	·, /プロボン:	- _ :	い, /宝羽 /っ ,	· _ 』. ドロ_	ħ					
内容	ノイスカッショ	ディスカッション/プレゼンテーション/実習/フィールドワーク									
評価方法と割合	卒業論文の作成	卒業論文の作成・提出(50%)およびその過程(50%)で評価する。									
ルーブリック評価											
課題や試験のフィー	ドレポートや課題	レポートや課題などは、次回の講義中にフィードバックする。									
バック方法											
履修条件・注意事項 植物病理学分野に選考分属した学生を対象とする。 研究を開始する前に、実験を安全に進めるためのレク							ためのレクチャー				
+*************************************	を行うので、必		•	- 1. 11 - 1 11 - 1 - 21 11	7454184	1 🗆 + 1	/ 1 Amm 1 -	1 1+8810	±/= 77	U V#L+N+	
	とそ一研究課題に関連		乂、教具	ほより受けた説明	別容なとを	1日めた	り概ね	1 時間程	支復省	し、必要に応じて	
の時間		予習も心がける。									
オフィスアワー 個人研究室にて、月曜〜金曜の間、毎日18時30分〜19時30分に実施 授業計画 担当者							担当者				
 実験・実習		1又ラ						*	t上	担当有	
大阪大日								17	1 —		
教科書											
教・書籍名1							教・出	版社名1			
教・著者名1		教・I S B N 1									
教・書籍名2		教・出版社名2									
教・著者名2	教・ISBN2										
参考書											
参・書籍名1							参・出	版社名1			
参・著者名1							参・	S B N 1			
参・書籍名2							参・出	版社名2			
参・著者名2	・著者名2 参・ISBN2										